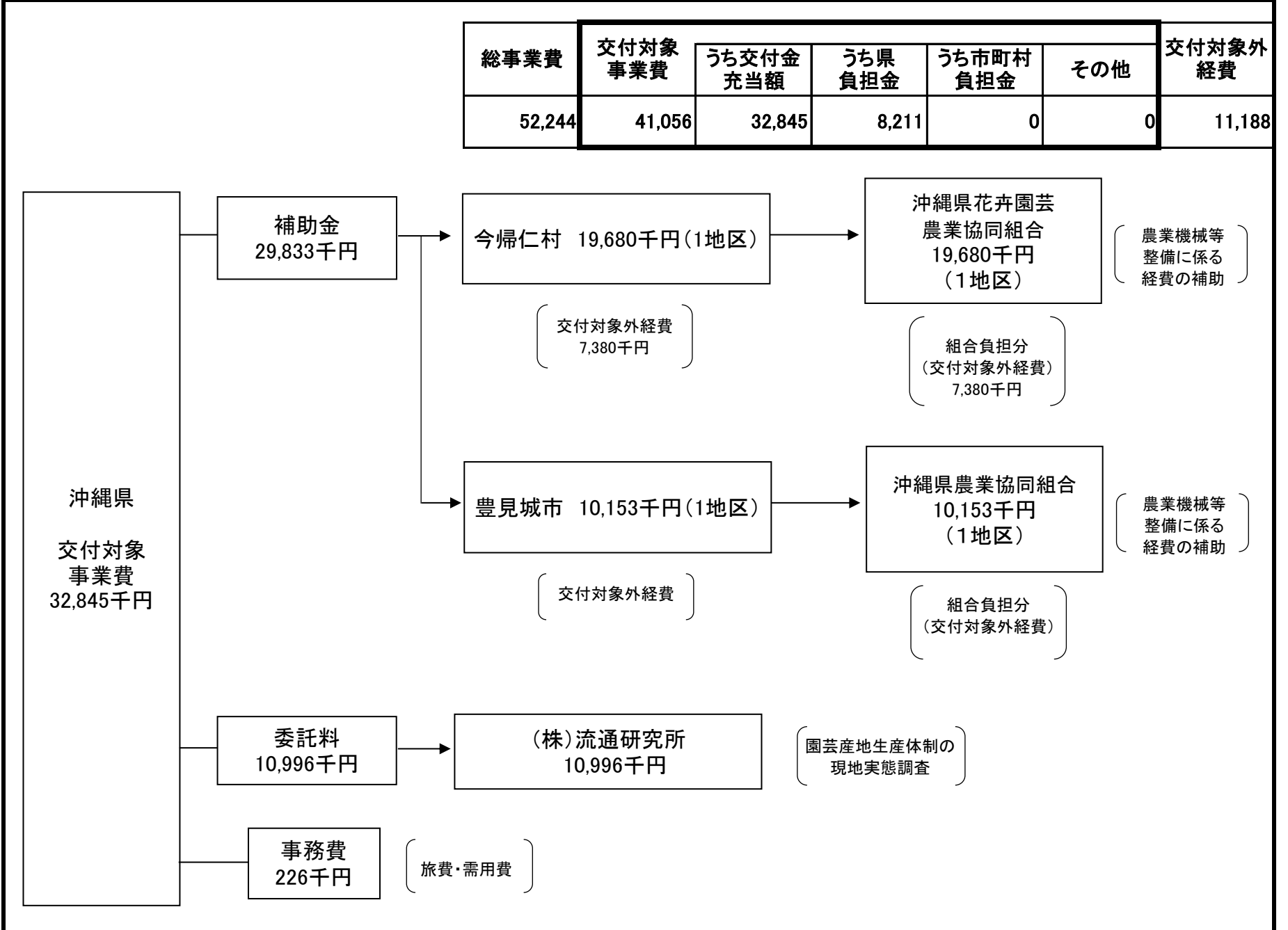


## 令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	73	園芸産地生産支援事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-ア-①				
				野菜・果樹・花き類等の生産振興				
担当部課名	農林水産部 園芸振興課	事業実施 (予定)年度	H24～R6 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(6)			
事業内容	園芸産地に対し、生産拡大に向けた収穫機等機械整備に対する補助事業を行うとともに、今後の機械化体系構築のための現地実態調査を行う。							
効果発現年度	■当年度      ■後年度(令和6年度)							
実施方法	□直接実施    ■委託      ■補助      □負担      □その他( )							
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度		
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額			28,740		46,743	
		(b) 予算現額			28,740		46,743	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
		(d) 前年度繰越額						
		A. 計(b+d)	0	0	28,740	0	46,743	
	B. 執行済額				23,705		41,056	
	うち交付金充当額				18,964		32,845	
	C. 次年度繰越額				0	0	0	
	執行率(%) (B/A)				82.5%		87.8%	
予算の状況の説明		・執行率は87.8%であり、補助事業1地区について計画内容の調整に時間を要し実施できなかったことから、執行残が発生した。						
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況					
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	農業用機械等の整備への支援	目標	-	-	2地区	3地区		
		実績	-	-	1地区	2地区		
	園芸産地生産体制の現地実態調査	目標	-	-	3件	3件		
		実績	-	-	3件	3件		
進捗状況説明	農業用機械等の整備への支援については、自動結束ロボット付き選花機(キク)、加温機等(マンゴー)を整備したが、他1地区が計画内容の調整に時間を要し、実施できなかった。目標3地区に対して実績2地区と未達成となった。園芸産地生産体制の現地実態調については、委託業者へ事業の進捗を定期的に確認し、目標値を達成した。							
成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (R8年度)	
	農業用機械等の整備への支援	目標	-	-	2地区	3地区	3地区	
		実績	-	-	1地区	2地区	-	
	【R8年度成果目標】 令和5年度で整備した受益農家(花き)の生産量増加		目標	-	-	-	-	5%以上増加
	達成状況説明	成果目標である農業用機械等の整備への支援について、目標2地区に対し、実績1地区と未達成となっている。達成できなかった主な理由は、市町村との計画調整に時間を要し事業実施が困難となったことによるものである。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助事業について、事業計画作成にむけた市町村等との調整に時間を要する状況があった。</li> <li>機械化体系構築を目指した実態調査および先進事例調査の結果より、導入候補を選定することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市町村や農業団体、普及機関等で構成される産地協議会等を積極的に活用し、事業計画に係る調整の円滑化を図る。</li> <li>農作業機械化については、過年度に検証した品目以外にも要望があることから、農業団体、生産者、試験研究機関等と連携し、機械化体系の新たな導入候補の検証を行う必要がある。</li> </ul>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>野菜、果樹、花きの生産拡大に向けて、引き続き機械化の推進が必要なため、市町村をはじめ関係機関との連携を強化した取組による早期執行を図るよう努める。</li> <li>前年度までに検証した機械について事例集を活用した普及に務めるとともに、新たな候補の選定を行い、さらなる機械化促進を目指す。</li> </ul>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流れ、費目	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、前年度にプロポーザル方式により複数年度に係る企画提案を評価、選定した業者との契約であり、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○補助事業は、交付要綱、実施要領、事業計画等を精査した上で、実施地区を選定しており、妥当であったと考えている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○交付要綱で事業実施主体への補助率(80%)が定められており、負担関係は妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○補助金は、額の確定時において、事業目的達成の観点から現場確認及び支出等に関する書類により確認、委託料は、費目・使途が目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。

## 令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	74	熱帯果樹優良種苗供給実証事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-ア-①			
担当部課名	農林水産部 園芸振興課	事業実施 (予定)年度	H27～R5 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(6)		
事業内容	パインアップル登録品種の種苗生産および供給体制を検証するとともに、課題を抽出し自走に向けた整備を行う						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R7年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	10,027	0	5,939	0	6,000
		(b) 予算現額	10,027	0	5,939	0	6,000
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	10,027	0	5,939	0	6,000
	B. 執行済額		9,539		5,888		5,942
	うち交付金充当額		7,631		4,710		4,753
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		95.1%		99.1%		99.0%
予算の状況の説明		執行率は、99%であり、使用量及び賃借料、需用費、旅費等の経費節減による不用額が発生したものである。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)	進捗状況					
	熱帯果樹種苗生産供給体制の整備 (R2、3:ピタヤ、R4、5:パインアップル)	目標	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
		実績		1件	1件	1件	
進捗状況説明	熱帯果樹優良種苗供給体制構築のため県育成品種(パインアップル)の種苗増殖の実践等を1件行った。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)	基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (R7年度)	
	熱帯果樹優良種苗生産供給体制の整備	目標	-	1件	1件	1件	-
		実績	-	1件	1件	1件	-
	【R7成果目標】 パインアップル新品种の種苗生産供給体制 の自走	目標	-	-	-	-	1件
達成状況説明	熱帯果樹優良種苗供給体制構築のため県育成品種(パインアップル)の種苗増殖の実践等を1件行った。						

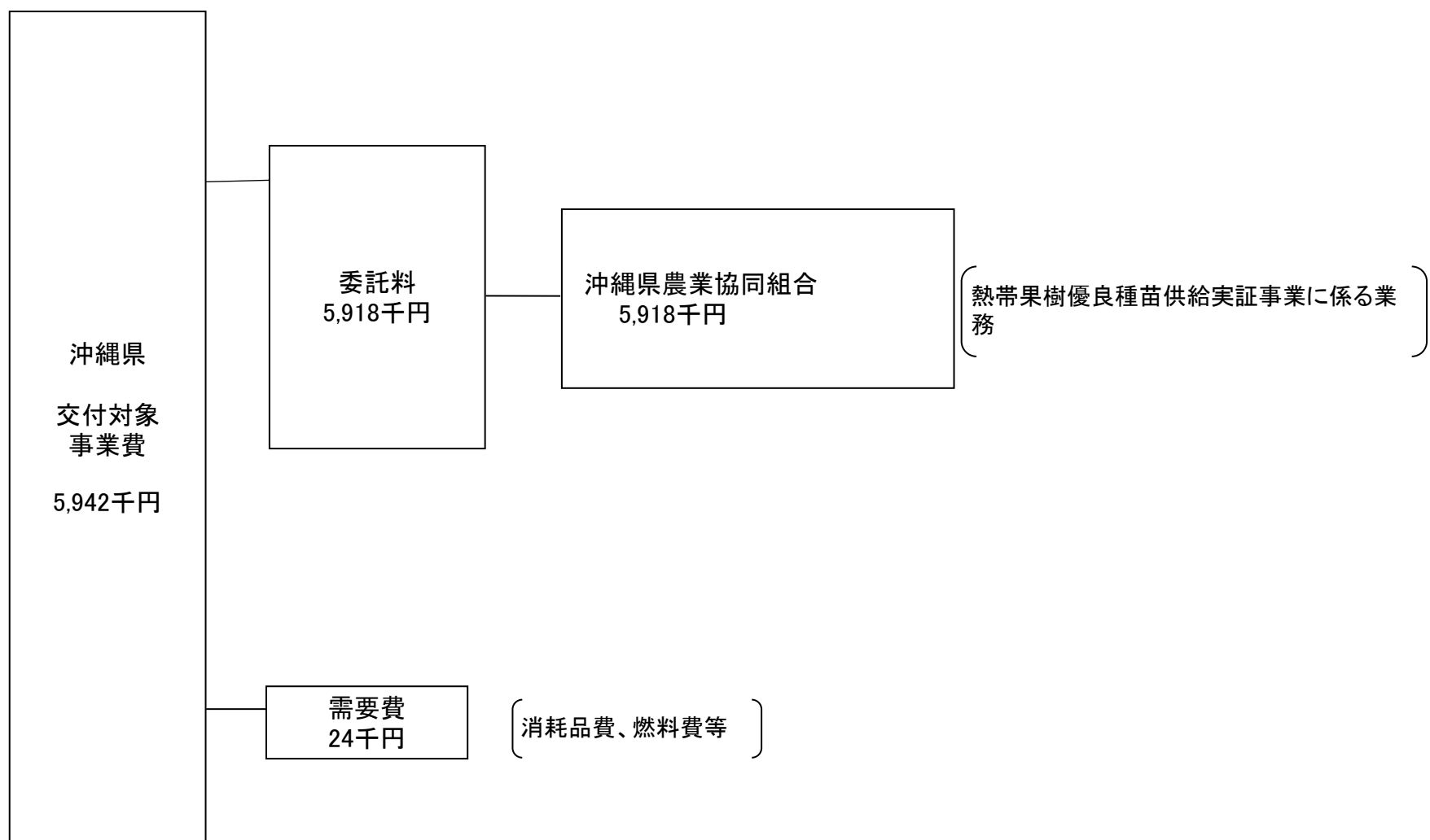
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	種苗法改正(登録品種の自家増殖許諾制の導入)に対応した種苗管理・増殖体制の整備と周知が必要である。	種苗法改正に伴う県の対応に即した種苗供給体制の整備を行い、体制の周知と理解の徹底を関係機関および生産者と図っていく必要がある。

**今後の取り組み方針**

- ①生産実証に向けた供給体制の整備を円滑に進めるため、年度初めに当課所管事業の説明会や果樹担当者会議において協力を呼びかける。
- ②種苗会社や関係機関等と連携しながら種苗配付体制の整備を図る。
- ③種苗法改正の最新動向を関係機関と共有する。
- ④各産地において、生食用および加工用パインアップルの種苗を増殖・普及することにより、産地力を強化し、おきなわブランドの確立を図る。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金 充当額	うち県 負担金	うち市町村 負担金	その他	交付対象外 経費
5,942	5,942	4,753	1,189	0	0	0



資金の 用途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
資金の 用途の 流れ、 費目 ・ 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者はパインアップル生産部会や育苗施設を有しており、種苗増殖体制が整っている等、適用基準を満たしているため、随意契約により締結した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については事業目的の達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適切であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	78	さとうきび機械化一貫体系モデル事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-ア-③			
担当部課名	農林水産部 糖業農産課	事業実施 (予定)年度	H27～R6 年度	さとうきび等の安定品目の生産 振興			
事業内容	合理的なさとうきびの機械化一貫体系を確立し、基幹作業の受託体制強化による生産性の回復、安定化に向け、より一層の「飛躍的な省力化、作業効率化」を図るための取組を支援する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度( 年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 ■補助 □負担 □その他( )						
予算額・ 執行額 【単位：千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	115,690		107,788		92,953
		(b) 予算現額	115,690		76,389		76,881
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 31,399	0	▲ 16,072
		(d) 前年度繰越額	0		0		0
		A. 計(b+d)	115,690	0	76,389	0	76,881
	B. 執行済額		112,740		75,109		75,170
	うち交付金充当額		90,192		60,087		60,136
	C. 次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		97.5%		98.3%		97.8%
予算の状況の説明		・さとうきび収穫機械機能向上支援事業補助金における実施申請取下げ(5件、▲16,072千円)に伴い、2月に減額補正を行った。 ・執行率は97.8%となり、概ね計画的に執行出来た。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	①効率的な機能向上・強化対策への支援	目標	30台	31台	21台	21台	
		実績	41台	28台	21台	17台	
	②オペレータ確保・技能向上研修会の開催	目標	1地区	2地区	—	—	
		実績	2地区	2地区	—	—	
	③スマート農業技術の経営改善効果を評価する運営検討委員会の開催	目標	—	3回以上	—	—	
		実績	—	4回	—	—	
	④先進技術を活用するための研修メニューの創設	目標	—	—	1件	—	
		実績	—	—	1件	—	
⑤デジタル技術を活用するオペレータ養成者数	目標	—	—	—	50名		
	実績	—	—	—	62名		
進捗状況説明	①収穫機械機能向上・強化対策への補助について、事業取下げによる実施件数の減が生じたものの、5市町村(17台)で事業を実施し、概ね目標を達成出来た。 ⑤デジタル技術を活用するオペレータを養成するためのスマート農業技術研修会を5地区で開催し(5回)、参加者が62名となり、目標を達成出来た。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (R3年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (R6年度)
	①ハーベスタ収穫率	目標	—	80.4%	82.6%	84.8%	87.0%
		実績	—	82.6%	84.5%	87.0%	—
	②オペレータの研修育成者数	目標	—	20名	—	—	—
		実績	—	54名	—	—	—
	③農業経営改善効果モデル事例数	目標	—	1事例	—	—	—
		実績	—	1事例	—	—	—
	④先進技術の利活用に取り組む農業法人等率	目標	—	—	5.0%	10.0%	12.0%
		実績	—	—	6.3%	14.6%	—
	達成状況説明	①ハーベスタ収穫率については、保有台数396台に対する稼働率119%と利用効率が高く、前年実績を2.5ポイント上回る87.0%となり、目標以上の実績を達成出来た。 ②先端技術の利活用に取り組む農業法人等率については、令和6年3月末時点のさとうきび農業法人数(233件)に対して、自動操舵システムや経営・生産管理システム等の導入件数が「34件」となったことで目標以上の実績を達成できた。					



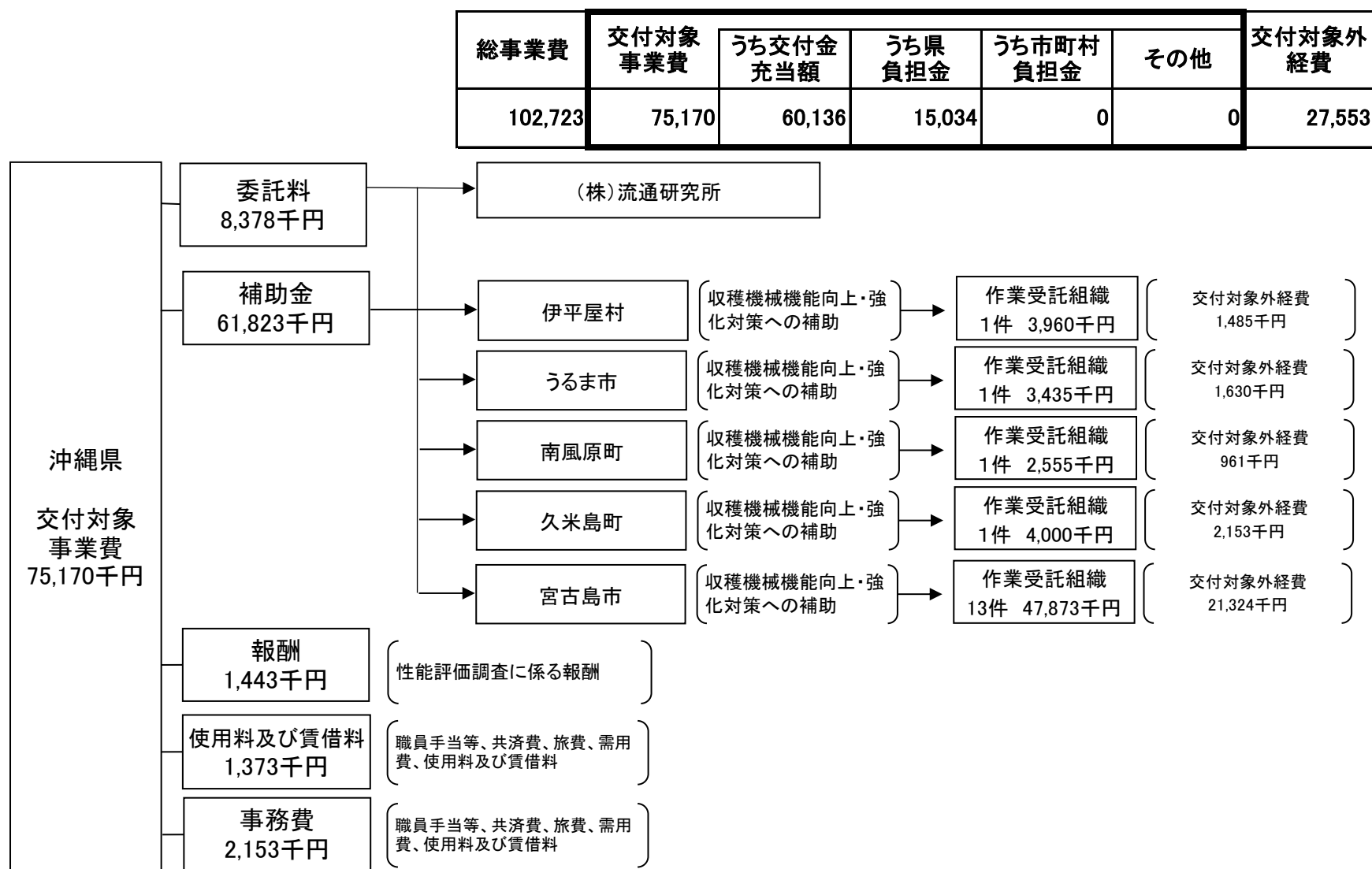
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>他品目と同様に高齢化が進んでいることから、重労働である収穫や植付作業の委託(機械利用)への要望が高まっている。</li> <li>委託作業の要望が増加していることから、地域における基幹作業受託体制の強化による安定生産性の持続化を図るため、作業受託者の育成並びに先端技術を活用した作業の効率化・省力化が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地区さとうきび増産計画プロジェクト会議等関係機関が情報共有する場で、効率的・計画的な高性能農業機械導入とスマート農業技術の活用について協議する。</li> <li>スマート農業技術の普及が進んでいる水稻等を参考に、さとうきびで活用可能な技術の検証等を行うことで、先端技術の導入や普及、利活用可能な人材育成に向けた研修会実施等の取組を推進する。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- 各地区さとうきび増産プロジェクト会議等関係機関が情報を共有する場で、地域の合意及び効率的・計画的な高性能農業機械導入等について協議する。
- さとうきびにかかる地域毎の会議において、収穫機械化により生じた課題を協議し、具体的対策(株出管理展示ほ設置等)の実施により、生産性の維持向上を目指す。
- 水稻で利活用が普及している農薬散布用ドローンに関しては、さとうきびにも応用が可能であることから、令和6年度のスマート農業技術研修会のカリキュラムとして取り上げ、ドローンの利活用が可能な人材育成を推進する予定。

**資金の流れ**

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の用途の点検・評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、沖縄県随意契約ガイドラインに基づき選定しており、妥当である。  ○費用・用途は、事業目的達成の観点から額の確定に伴う事業完了検査時において、書類及び現地確認を適正に行っている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	80	山羊消費供給安定化事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)		3-(7)-ア-②		
担当部課名	農林水産部 畜産課	事業実施 (予定)年度	H30~R7	年度	肉用牛・養豚の生産振興		
事業内容	県産山羊肉の安定供給を図るため、飼養規模拡大に伴う課題の解決を目的とし、以下のことに取り組む。 1 飼養管理技術に関する検討会の開催 2 飼養管理技術の実証試験の実施 3 飼養管理技術に関する講習会の開催 4 飼養規模拡大に対する支援						
効果発現年度	■当年度      ■後年度（R7年度）						
実施方法	■直接実施    □委託      ■補助      □負担      □その他（ ）						
予算額・ 執行額 【単位：千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	18,263	—	10,766	—	7,723
		(b) 予算現額	18,263	—	10,766	—	7,723
		(c) 増減額(b-a)	0	—	0	—	0
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	18,263	—	10,766	—	7,723
	B. 執行済額		13,866	—	8,938	—	6,832
	うち交付金充当額		11,093	—	7,151	—	5,466
	C. 次年度繰越額		0	—	0	—	0
	執行率(%) (B/A)		75.9%	—	83.0%	—	88.5%
予算の状況の説明		・沖縄県産山羊肉の供給安定化を図るため、飼養規模の拡大に伴う課題の解決を目的に、令和4年度からの新規事業(平成30~令和3年度で実施したおきなわ山羊改良基盤整備事業の後継事業)として、飼養管理技術の確立・普及(実証試験・講習会)及び飼養規模拡大推進に要する経費として需用費及び補助金等を計上した。 ・執行率は98.0%であり、主に報酬費の執行残が発生したことによるものである。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	飼養管理技術に関する検討会の開催	目標	—	—	3回	3回	
		実績	—	—	4回	3回	
	小規模農家に対して、飼養規模の拡大における課題を検証し、実用可能な飼養管理技術の実証を行う。	目標	—	—	1件	1件	
		実績	—	—	1件	1件	
	山羊家畜セリ市場において取引される繁殖山羊20頭について導入費を補助する。	目標	—	—	20頭	20頭	
		実績	—	—	20頭	16頭	
	北部、中部、南部、宮古、八重山の5地域において技術講習会を開催	目標	—	—	5回	5回	
		実績	—	—	5回	7回	
	改良協議会を設立し、協議会や専門委員会等を開いて改良の方向性を決定する	目標	改良目標・ 交配計画策定	改良目標・ 交配計画策定	—	—	
		実績	改良目標・ 交配計画策定	改良目標・ 交配計画策定	—	—	
	各山羊部会で保管している優良種山羊の体重、胸囲等を測り、体型が優れた山羊を選定する	目標	20頭	20頭	—	—	
		実績	111頭	89頭	—	—	
	ニュージーランドから導入した優良種山羊の精液を製造する	目標	1500本	—	—	—	
実績		2400本	921本	—	—		
おきなわ山羊品評会実行委員会を年2回開き、品評会開催に向けた調整を行う	目標	2回開催	2回開催	—	—		
	実績	—	—	—	—		
県内家畜市場で開催される山羊セリで山羊生産組合が導入した優良山羊の購入に係る費用に対し、8/10(上限額7万円)の助成を行う	目標	50頭	50頭	—	—		
	実績	21頭	6頭	—	—		
県内4ヶ所にある家畜保健衛生所と畜産研究センターと共同で山羊飼養管理講習会を開催する	目標	2回	2回	—	—		
	実績	2回	—	—	—		
進捗状況説明	・飼養管理技術に関する実証試験の内容及び方針を検討するため、沖縄県山羊振興協議会及び専門委員会等を3回開催した。 ・飼養管理に関する実証試験を昨年に引き続き1件実施中である。 ・県内の山羊セリにて各山羊生産部会が導入した優良山羊16頭に対して導入費用の助成を行った。 ・山羊の飼養管理技術講習会を本島・宮古・八重山の各地域で計7回開催した。						

成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (R7年度)
		実証試験計画策定:1件	目標	-	-	1件	1件
		実績	-	-	1件	1件	-
小規模農家の実態調査:25件 実証試験:1件	目標	-	-	聞取調査:25件 実証試験:1件	聞取調査:25件 実証試験:1件	-	
	実績	-	-	聞取調査:26件 実証試験:1件	聞取調査:37件 実証試験:1件	-	
優良種畜の20頭増	目標	-	-	20頭	20頭	-	
	実績	-	-	20頭	16頭	-	
技術講習会の開催:5回 講習会参加者:150人	目標	-	-	開催数:5回 参加人数:150人	開催数:5回 参加人数:150人	-	
	実績	-	-	開催数:5回 参加人数:56人	開催数:7回 参加人数:104人	-	
	【R7成果目標】 優良種畜の80頭増	目標	-	-	-	-	80頭
達成状況説明	①検討会にて実証試験計画の見直しを行い、再度1件策定した(対象農家を3件増)。 ②県内全域の山羊生産農家から飼養規模・管理及び増頭等について聞き取り調査を37件実施し、検討会にて決定された飼養管理に関する実証試験を1件実施中である。 ③県内の山羊セリにて各山羊生産部会が導入した優良山羊16頭に対して導入費用の助成を行ったが、目標の20頭を達成できなかった。達成できなかった主な理由としては、年度内の山羊セリで優良山羊の出品数が少なかったことによるものである。 ④山羊の飼養管理技術講習会を本島・宮古・八重山の各地域で計7回開催したが、目標の参加人数150人を達成できなかった。達成できなかった主な理由としては、地域ごとに飼養管理への関心度が異なるため、参加人数にばらつきが出たことによるものである。						

R5-No.80

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
		飼養管理技術講習会の参加人数に関して、地域ごとにばらつきが出ており、目標人数に満たなかった。
<b>今後の取り組み方針</b>		
講習会について、実技を含む講習を増やす、多くの農家が参加する山羊セリの後に開催するなど、参加しやすく、より農家のニーズに合った講習会を行えるよう各関係機関と調整し実施していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)							
総事業費	交付対象事業費	うち交付金 充当額	うち県 負担金	うち市町村 負担金	その他	交付対象外 経費	
							7,569
<p>沖縄県 交付対象事業費 6,832千円</p> <p>補助金 1,115千円</p> <p>事務費 5,717千円</p> <p>JAおきなわ山羊生産 振興協議会</p> <p>（受益者負担分 (交付対象外経費) 737千円</p> <p>（報酬、共済費、旅費、 需用費、役務費、職員 手当等</p>							
資金の 使途の 流れ・ 費目・ 評価	評価	点検項目				評価に関する説明	
○	支出先の選定方法は妥当か。					○補助事業者は、事業費の2割を負担し、事業内容や他の事業負担割合から判断しても妥当であった。 ○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。					
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。					
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。					



## 令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	81	沖縄アグー豚保全体制構築事業		新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-ア-②		
担当部課名	農林水産部 畜産課	事業実施 (予定)年度	H28～R8 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	肉用牛・養豚の生産振興		
事業内容	豚熱、アフリカ豚熱等の悪性伝染病の脅威から貴重な固有種であるアグーを守るため、アグーの分散および凍結技術により保全体制の構築を図る。						
効果発現年度	■ 当年度      ■ 後年度(R8年度)						
実施方法	■ 直接実施      ■ 委託      □ 補助      □ 負担      □ その他 ( )						
予算額・ 執行額 【単位：千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算 の 状況	(a) 当初予算額	15,011		20,354		15,396
		(b) 予算現額	15,011		20,354		15,396
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	15,011	0	20,354	0	15,396
	B. 執行済額		14,731		13,724		12,438
	うち交付金充当額		11,785		10,980		9,950
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.1%		67.4%		80.8%
予算の状況の説明		・執行率は80.8%である。主に久米島での飼養管理を行っているアグー産子の作出数が計画よりも少なく、その分飼料代が浮いたことによる委託費の残が生じたことによるものである。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	施設内でのアグー母豚の分娩	目標			1回	1回	
		実績			1回	1回	
	県内アグー生産農場への分散飼育	目標				1回	
		実績				0回	
	高品質な凍結胚の採取のための試験	目標			3回	3回	
		実績			3回	3回	
	進捗状況説明	・アグーの増頭を図るため、施設内でのアグー母豚の交配を行い、1回の分娩を実施している。 ・施設内におけるアグー産子の作出数が計画よりも少なかったことから、分散飼育については実施を見送ることとなった。 ・3回の優良アグー雌豚の高品質な凍結体外受精卵及び体内胚を計333個採取した。					
	成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度
施設内でのアグー母豚の分娩		目標	-	-	1回	1回	-
		実績	-	-	1回	1回	-
保全体制の検討会議開催		目標	-	-	2回	2回	-
		実績	-	-	2回	2回	-
県内アグー生産農場への分散飼育		目標	-	-	-	1回	-
		実績	-	-	-	0回	-
高品質な凍結胚等の採取		目標	-	-	-	200個/年	-
		実績	-	-	-	333個/年	-
【R10成果目標】 生産者と県が連携した保全体制の構築		目標	-	-	-	-	参加生産者数 7人
【R10成果目標】 アグーブランド豚肉の安定供給		目標	-	-	-	-	出荷頭数 3万頭/年
達成状況説明	【R5成果目標】 ・施設内でのアグー母豚の分娩を1回実施した。 ・沖縄アグーブランド推進協議会生産部会を2回開催した。 ・施設内におけるアグー産子の作出数が計画よりも少なかったことから、分散飼育については実施を見送った。 ・沖縄アグー豚受精卵の移植に伴う試験を実施し、計333個の凍結胚・凍結受精卵の採取を行った。						

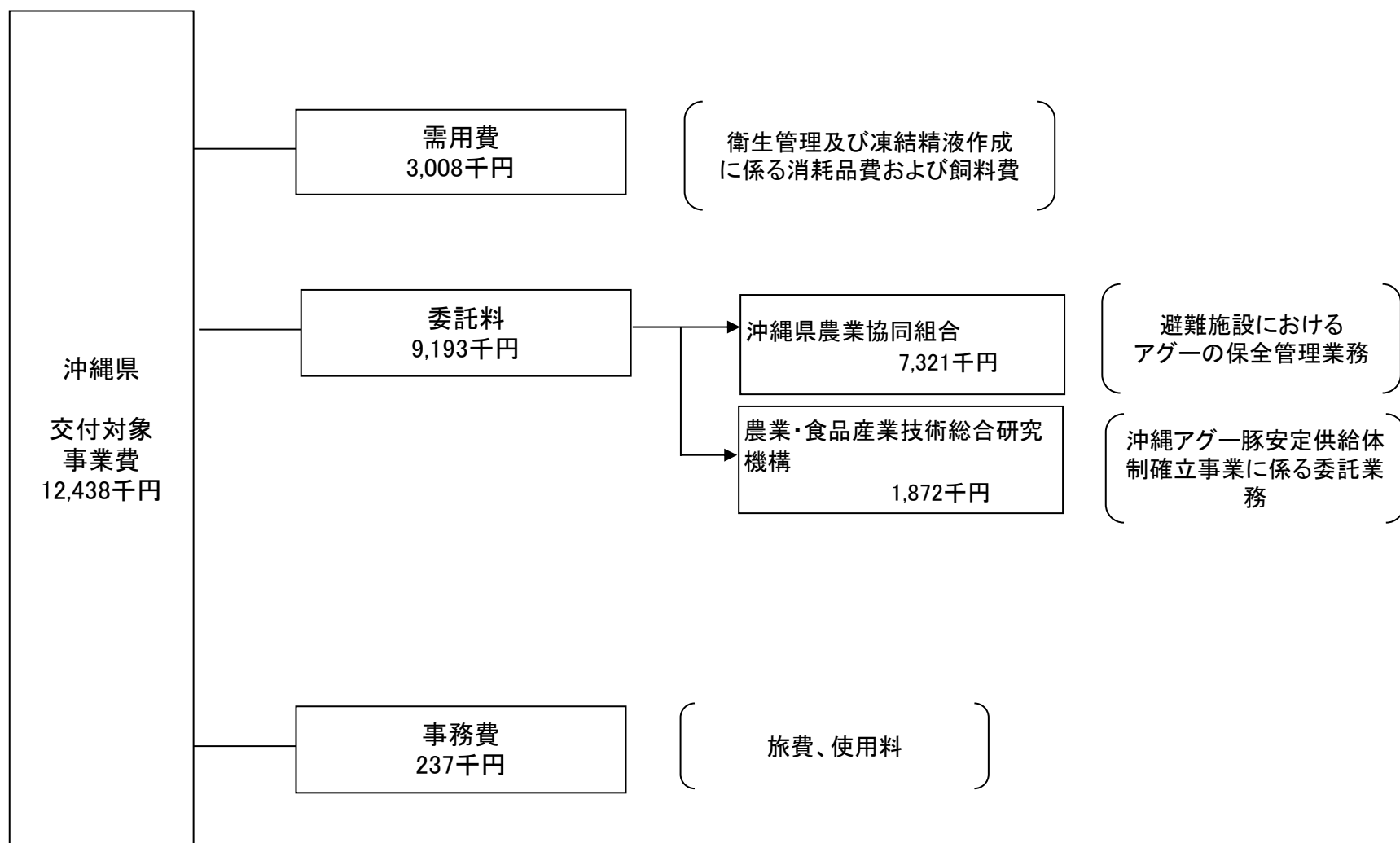
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	令和2年1月に本県で豚熱が発生し、アグーの一部が殺処分された。現在もアジアではアフリカ豚熱等の家畜伝染病が発生している状況であり、今後も国内やアジアから家畜伝染病が侵入した場合、アグーが壊滅的な被害を受ける恐れがある。	家畜伝染病発生時のアグー処分リスクを下げるため、離島を含めた県内の複数地域でのアグー飼養管理体制を維持する必要がある。

**今後の取り組み方針**

凍結精液、高品質な卵子採取技術を活用して受精卵を作成し、西洋豚で移植させる手法の再現性を検討する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
12,438	12,438	9,950	2,488	0	0	0



資金の 用途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の 用途の 流れ、 費目 ・ 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○避難施設における保安全管理業務は、契約の相手方が1社のみであったため、随意契約とした。研究業務委託は、企画提案審査会により選定したため、妥当であったと考える。 ○費用・用途については事業目的達成の観点から必要なものについて額の確定時の際に支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

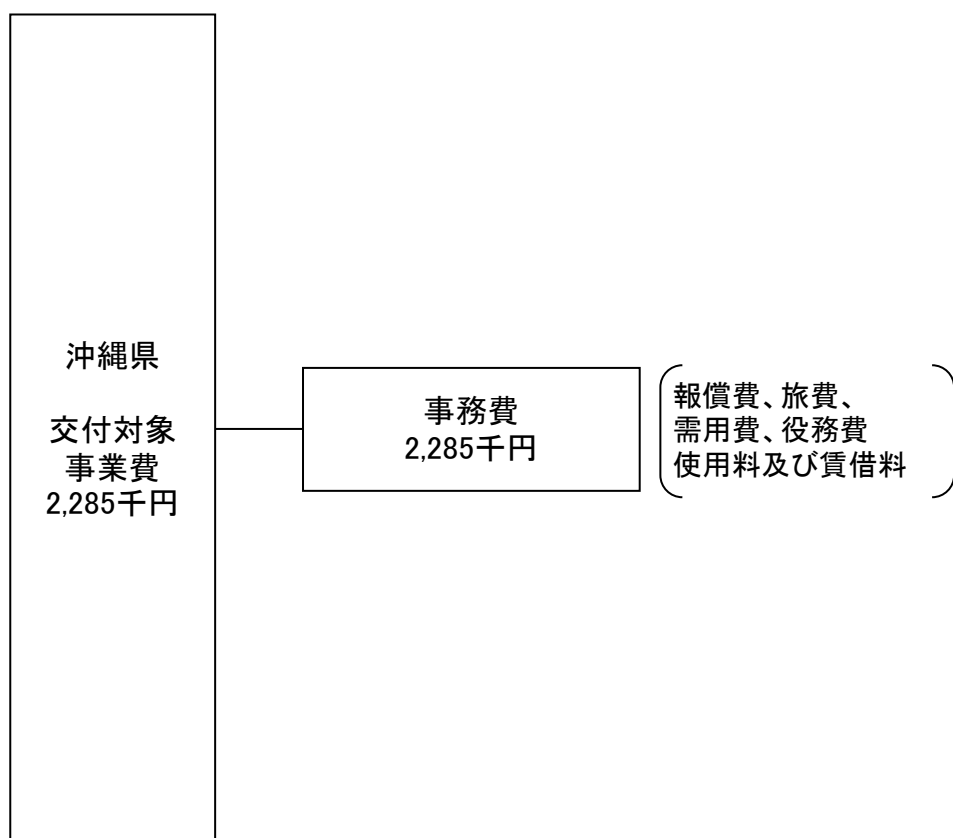
## 令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	83	自給飼料生産課題解決モデル事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-ア-②			
担当部課名	農林水産部 畜産課	事業実施 (予定)年度	H31～R6 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(6)		
事業内容	寒地型牧草の沖縄県内各地域に対応した栽培方法を確立するため、展示圃を沖縄県全域に設置し、精密な化学分析を行いながら生育状況調査を行う。また、展示圃を活用して農家向け現地検討会を実施する。						
効果発現年度	■当年度      ■後年度(令和12年度)						
実施方法	■直接実施    □委託      □補助      □負担      □その他( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	4,788		3,891		2,764
		(b) 予算現額	4,788		3,891		2,764
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額	0		0		0
		A. 計(b+d)	4,788	0	3,891	0	2,764
	B. 執行済額		2,978		2,943		2,285
	うち交付金充当額		2,382		2,354		1,828
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		62.2%		75.6%		82.7%
予算の状況の説明		・寒地型牧草の沖縄県内各地域に対応した栽培方法を確立するため、令和4年度から新規事業(平成31～令和3年度で実施した自給型畜産経営飼料生産拡大普及推進事業の後継事業)として、寒地型牧草との作付体系の確立等に要する経費を計上した。 ・令和5年度の予算執行率は82.7%であり、主に役務費の執行残が発生したことによるものである。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	実証展示圃設置(本島北部、中南部、宮古地区、八重山地区、伊江島、久米島)	目標	-	-	6地区	6地区	
		実績	-	-	6地区	6地区	
	実証展示圃における現地検討会及び農家向け見学会(各地区2回)	目標	-	-	12回	12回	
実績		-	-	12回	12回		
進捗状況説明	・実証展示圃設置については、事前の計画策定により目標値を達成した。 ・実証展示圃における現地検討会及び見学会は、6地区における実証展示圃設置後に1地区当たり2回、計12回実施した。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (R2年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (R12年度)
	沖縄県内寒地型牧草作付面積合計6haの拡大(各地区1ha)	目標	-	-	6	6	-
		実績	-	-	5	5	-
	実証展示圃を用いての畜産農家向け現地検討会又は講習会の開催:12回以上(各地区2回以上)	目標	-	-	12	12	-
		実績	-	-	12	12	-
	検証内容(途中経過)の沖縄県ホームページでの公表(展示圃6箇所分)	目標	-	-	1	-	-
		実績	-	-	0	-	-
	【R12成果目標】 令和2年度比54ha増(令和12年度)	目標	-	-	-	-	54ha増
	【R12成果目標】 沖縄県内全体の畜産経営における年間の飼料コスト低減額36,096千円(作付面積換算) (令和12年度)	目標	-	-	-	-	△36,096千円
	達成状況説明	成果目標である県内寒地型牧草作付面積合計6haの拡大については、実績が5haで未達成となっている。達成できなかった主な理由は宮古・八重山地区において寒地型牧草の普及が十分ではなかったため、作付面積が1haをそれぞれ下回ったことによるものである。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実証展示圃における試験区設定では、場当たりの設定により、試験区間の比較が困難になることが想定される。</li> <li>・寒地型牧草栽培は気温が低下する冬期に栽培することによって生育するが、暖冬や少雨傾向によって、発芽や生育に影響を及ぼすことが予想される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実証展示圃については、農家の意見を優先しつつ、計画策定において試験設計と調査項目について6地区で統一する。</li> <li>・実証展示圃を設置する前に、気象状況を確認し、良好な条件を見極めることで発芽・生育に及ぼす悪影響を抑制する。</li> </ul>
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4、5年度の実証展示圃結果を用いて、6地区毎の寒地型牧草栽培マニュアルを作成する。</li> <li>・農家への説明や、実証展示圃の継続を通し、寒地型牧草の普及拡大を進めていく。</li> </ul>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
2,285	2,285	1,828	457	0	0	0



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	-	支出先の選定方法は妥当か。	○予算内訳については事務費のみである。予算規模については、各出先機関が執行する事務費として適切であった。 ○費目・使途については、事業報告書等を検査し、適正である事を確認した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



## 令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	84	沖縄きのこ生産体制構築事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所（第4章）	3-(7)-ア-④			
担当部課名	農林水産部 森林管理課	事業実施（予定）年度	H31～R6 年度	沖縄振興基本方針該当箇所			
事業内容	・アラゲキクラゲ品種登録に向けたデータの整理、栽培マニュアル作成のための栽培試験の実施。 ・県内ホテル、飲食店、量販店等への市場調査の実施（需要見込みの把握）及び候補品目の栽培試験の実施						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度（令和9年度）						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額【単位：千円】		R3年度	R3年度（繰越）	R4年度	R4年度（繰越）	R5年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	11,565		9,059		7,084
		(b) 予算現額	11,565		9,059		7,084
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計 (b+d)	11,565	0	9,059	0	7,084
	B. 執行済額		11,272		8,835		7,073
	うち交付金充当額		9,018		7,068		5,658
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		97.5%		97.5%		99.8%
予算の状況の説明		・県外産きのこに依存しない県産きのこの生産体制を構築するため、令和4年度から新規事業（平成31年度～令和3年度で実施した沖縄県産きのこ生産強化事業の後継事業）として、事業実施に係る委託費等を計上した。前年比1,975千円減額となっているのは、研究機関の事務費（非常勤報酬費）を減じたためである。 ・執行率は99.8%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標（指標）及び進捗状況	R5活動目標（指標）		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	①アラゲキクラゲに係る栽培試験の実施	目標				1回	
		実績				1回	
	②新たなきのこ品目の選定のための市場調査	目標				1回	
		実績				1回	
	②新たなきのこ品目の選定のための栽培試験	目標				1回	
		実績				2回	
	沖縄県産アラゲキクラゲの品種登録申請書作成	目標	-	-	1式	-	
		実績	-	-	0式	-	
アラゲキクラゲ栽培マニュアル（骨子）の作成	目標	-	-	1マニュアル（骨子）	-		
	実績	-	-	1マニュアル（骨子）	-		
進捗状況説明	・バガスを活用したアラゲキクラゲの栽培試験を1回実施し、当該栽培手法を現場に適用する際の課題を把握した。 ・栽培試験を1回実施し、選抜した種菌の特性を把握した。 ・生産者や試験研究機関と連携し、種菌の拡大培養、管理ができそうな事業体について情報収集を行った。 ・県内のホテル及び飲食店を対象に、新たなきのこ品目（フクロタケ）の需要調査を1回実施し、目標値を達成した。 ・フクロタケの栽培に関する情報収集及び栽培試験を1回以上実施し、目標値を達成した。						
成果目標（指標）及び達成状況	R5成果目標（指標）		基準値（〇〇年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（R9年度）
	①栽培マニュアル（素案）の作成	目標				1マニュアル（素案）	
		実績				1マニュアル（素案）	
	②新規生産品目の選定（1品目）	目標				1品目	
		実績				1品目	
	品種登録申請	目標	-	-	1件	-	-
		実績	-	-	0件	-	-
	【R9成果目標】 県内のきのこ生産量（トン）		目標	-	-	-	1,433t
	達成状況説明	・受託者及び研究機関が行ったアラゲキクラゲの栽培試験により得られた知見を栽培マニュアル（素案）として反映し、目標を達成した。 ・受託者及び研究機関と連携した情報収集、検討委員会での有識者との意見交換により、新たな品目として1品目（フクロタケ）を選定し、目標を達成した。					



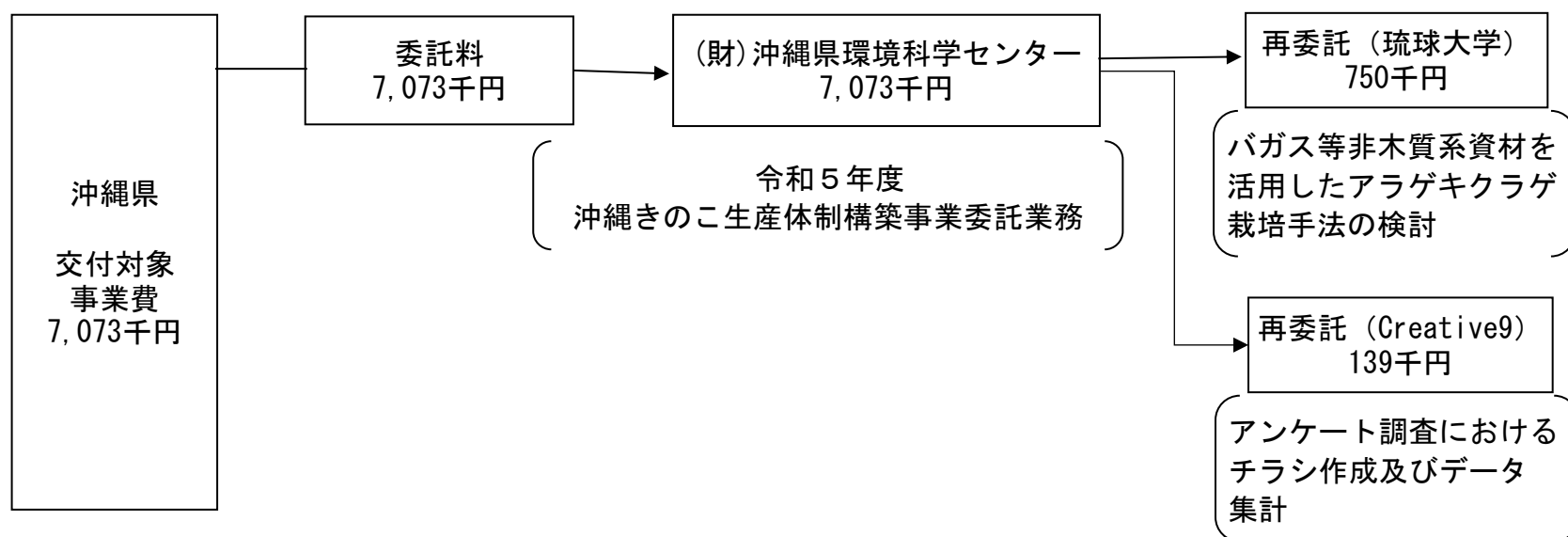
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①既存のアラゲキクラゲ栽培マニュアルは県外の気候を基準として作成されたものであるため、本県の気候特性に応じたアラゲキクラゲの栽培マニュアルが必要である。 ②品種登録後に、当該種菌を管理していく施設(技術者)が必要である。	①当該事業で作成する栽培マニュアルが生産現場に適用可能な内容となっているか、記載内容等を留意する。 ②種菌の管理体制について検討していく必要がある。

今後の取り組み方針

①研究機関や県内の生産者等と連携しながら栽培マニュアル作成を行う。  
 ②種菌について拡大培養を実施できそうな県内の研究機関、企業、事業体などの情報収集、管理体制案を検討する。

資金の流れ  
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
7,073	7,073	5,658	1,415	0	0	0



資金の 用途の 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○受託事業者は、企画提案型プロポーザル方式により選定したため、妥当であったと考える。 ○予算費目、用途については、事業報告書等を精査し、適正であることを確認した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

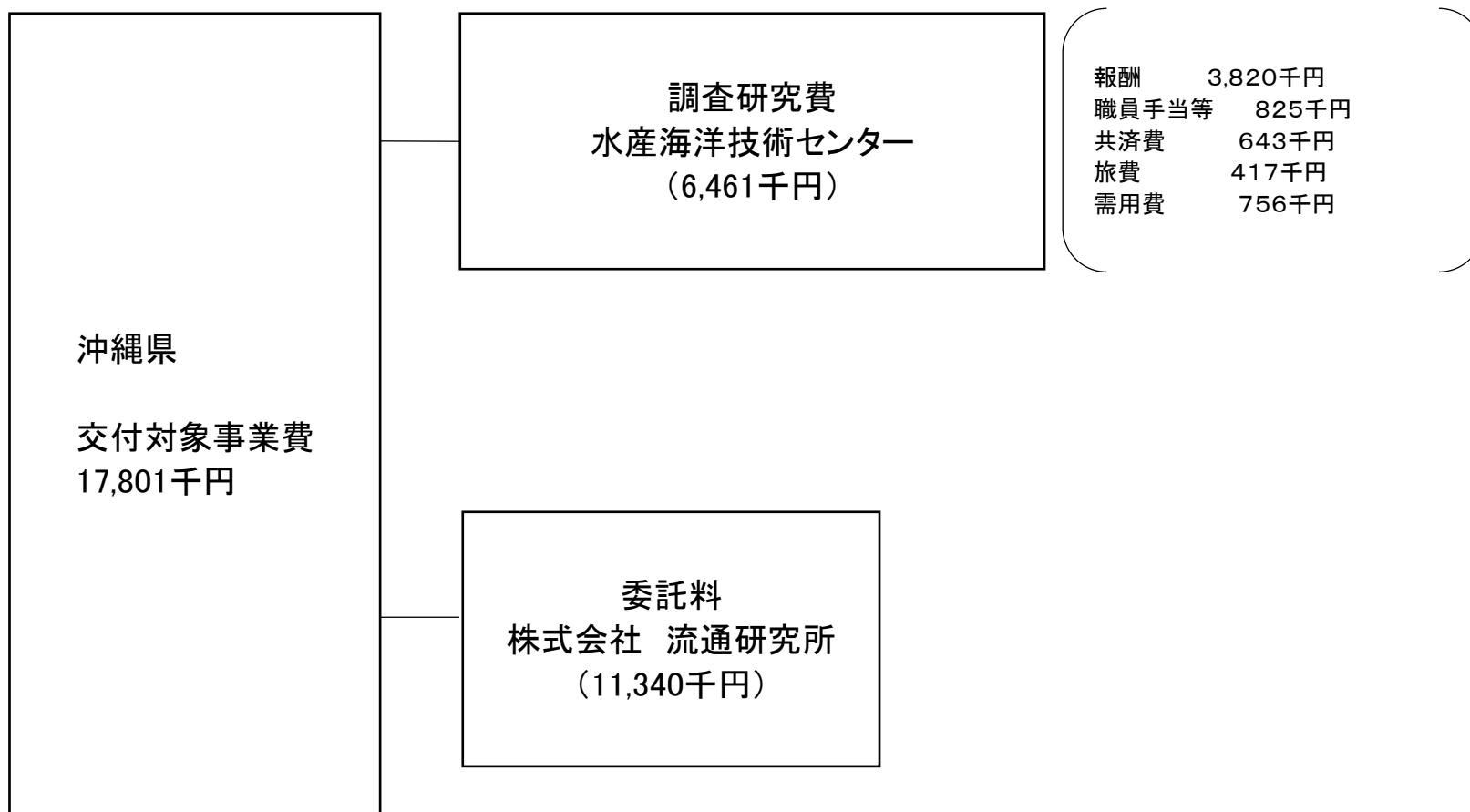
事業番号・事業名	86	サンゴ礁漁業におけるSDGsブランド化推進事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-ア-⑥			
担当部課名	農林水産部 水産課	事業実施 (予定)年度	H24~R8 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(6)		
事業内容	<p>【水技】 R4年度に選定した評価・支援対象魚種とその対象団体(漁協等)について、資源量推定等により持続可能性を評価すると共に、当該団体の資源管理策を検証する。</p> <p>【委託】 資源管理認証の取得を目指す団体(漁協等)を募り、認定取得後のプロモーション先のマーケティング調査を実施する。</p>						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度( R9年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	6,410		11,403		22,457
		(b) 予算現額	6,410		11,403		22,790
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	333
		(d) 前年度繰越額					
	A. 計(b+d)		6,410	0	11,403	0	22,790
	B. 執行済額		6,252		8,748		17,801
	うち交付金充当額		5,002		6,999		14,241
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)		97.5%		76.7%		78.1%
予算の状況の説明		会計年度任用職員の報酬等の差額遡及分333千円を事業間で流用した。執行率は78.1%であり、委託料の執行残によるものである。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	評価対象種2魚種を特定し、資源量推定等により、持続可能性を調査する。	目標			評価のための調査	資源量推定の調査	
		実績			評価のための調査を実施	資源量推定の調査を実施	
	資源管理に取り組む団体に対し、認証取得支援事業(水産庁:日本発水産エコラベル認証取得推進事業)の周知、活用斡旋(2団体)。	目標			情報収集・整理	認証支援に向けた調整	
		実績			情報収集・整理を実施	—	
	認証取得候補の水産物をプロモーションする候補先のマーケティング調査を実施する(2魚種)。	目標				マーケティング調査	
実績					マーケティング調査を実施		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源管理対象魚種を選定し、評価のための資源量推定調査を実施した。</li> <li>・当初、既存の水産エコラベルの認証取得の支援を予定していたが、令和4年度の国内外情報収集及び本県の団体(漁業)へのヒアリングの結果、申請費用及び申請に係る作業負担が大きく、本県の団体(漁協)には適していないと考えられた。そのため、本県独自の持続可能性を認証制度を新たに設立することとし、県独自の水産エコラベル認証のスキームの構築に向け、対象団体からの意見聴取を実施した。</li> <li>・マーケティング調査としてネットアンケートによる消費者調査を実施した。</li> </ul>						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (9年度)
	評価対象種2魚種を特定し、資源評価報告書を作成する。	目標			計画立案(2件以上)	報告書(2件)	
		実績			計画立案(2件)	報告書(2件)	
	認証取得事業への応募(2団体)	目標			報告書の提出(1件)	団体の応募(2件)	
		実績			報告書を提出(1件)	—	
【R9成果目標】 SDGsブランド水産物(の生産額)が沿岸魚類水揚げ金額全体の5%を占める	目標					SDGsブランド水産物の割合5%	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源管理策についての報告書を2件作成した。</li> <li>・成果目標として水産庁の日本発水産エコラベル認証取得推進事業へ2団体の応募を設定していたが、本県独自認証制度の設立に向けた事業内容に変更したことから、未達成となっている。</li> </ul>						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・本県団体へのヒアリングの結果、既存認証制度の対応が困難なことから、本県独自の持続可能性を認証する新たな制度の設立が必要となり、認証基準の設定、名称、ロゴマークなど、議論の必要な事項が多岐にわたることから、スキーム構築に時間を要している。</p>	<p>・認証スキームの構築には専門知識が必要とされることから、専門家の助言を受けながら進める必要がある。</p>

今後の取り組み方針
<p>・国際基準の水産エコラベルに携わっていた学識経験者から助言を受け、水産エコラベル認証制度を設立する。</p>

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
17,801	17,801	14,241	3,560	0	0	0



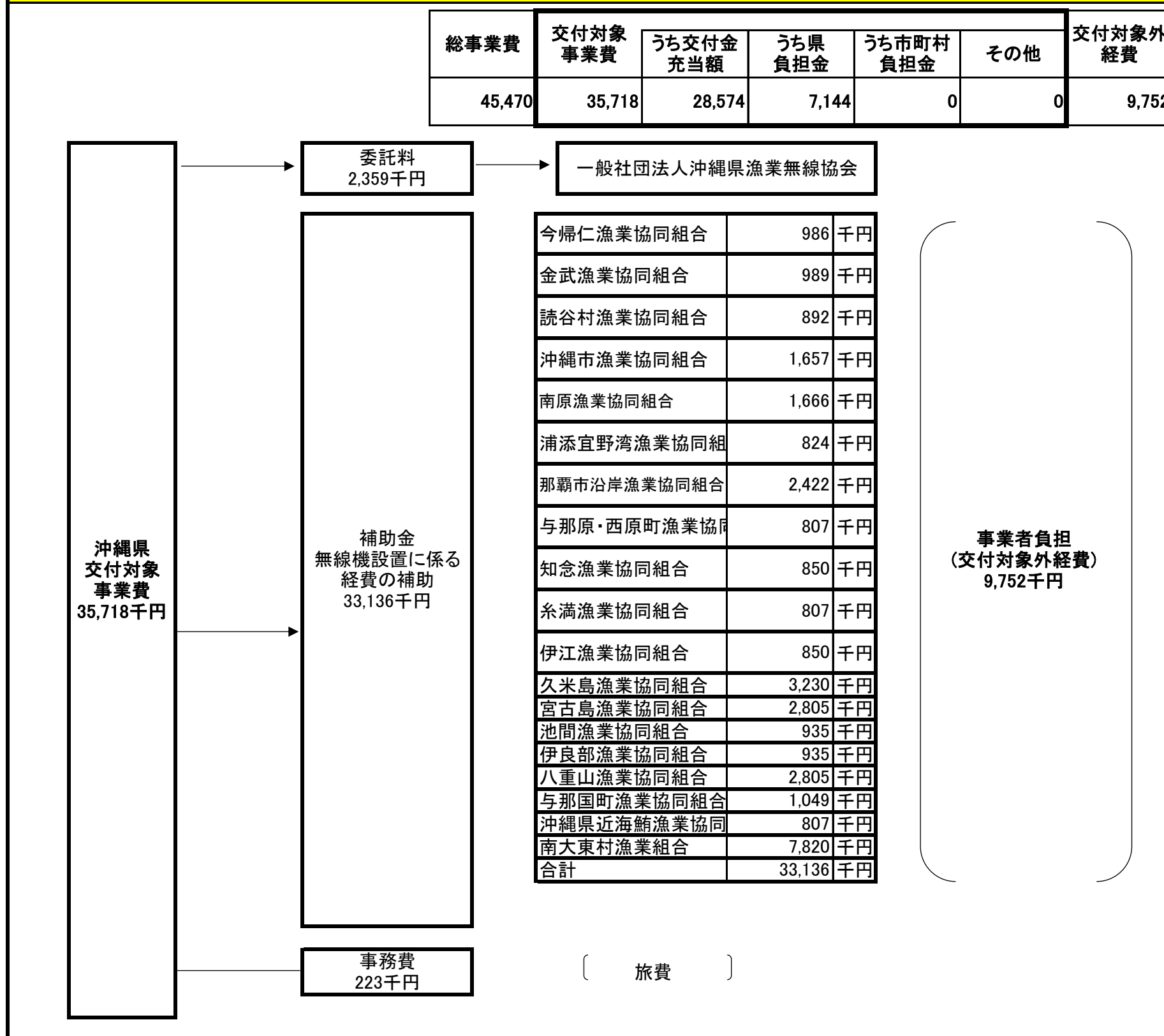
資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、企画提案プロポーザルなど事業の内容によって選定したため、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、業務報告書・証憑書類等を 検査し、適正である事を確認した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	87	沖合操業の安全確保支援事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-ア-⑥				
担当部課名	農林水産部 水産課	事業実施 (予定)年度	H24～R7 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(6)			
事業内容	漁業者の安全操業体制を確保するため、沖合で操業する漁船に対し、長距離用無線機設置を補助する。							
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R7年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )							
予算額・ 執行額 【単位：千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度		
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	44,046	0	41,571	-	41,569	
		(b) 予算現額	175,365	175,365	44,046	-	41,236	
		(c) 増減額(b-a)	131,319	175,365	2,475	-	▲ 333	
		(d) 前年度繰越額			135,000	-		
		A. 計(b+d)	175,365	175,365	48,160	-	41,236	
	B. 執行済額		40,258	0	37,795	-	35,718	
	うち交付金充当額		32,206	0	37,795	-	28,574	
	C. 次年度繰越額		135,000	135,000	0	-	0	
	執行率(%) (B/A)		23.0%	0.0%	78.5%	-	86.6%	
予算の状況の説明		執行率は85.9%であり、主に補助事業者の無線機の入札残による補助金の執行残によるものである。						
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況					
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	長距離用無線機を年間42台設置する。 (25w無線機41台、150w無線機1台)		目標	33台	44台	42台	42台	
		実績	42台	44台	41台	37台		
進捗 状 況 説 明	37隻の漁船に無線機を設置することができた。(目標値の約88%)							
成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (R3年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (R7年度)	
	長距離用無線機の整備率4ポイント増(R4: 63%→R5:67%)		目標	59.0%	59.0%	64.0%	67.0%	80%
			実績	59.0%	59.0%	63.0%	66.0%	-
	【R7成果目標】 沖縄県の沖合漁業の生産額		目標	-	-	-	-	106.5億円
達 成 状 況 説 明	37隻に無線機を設置し、令和4年度を基準に無線機設置率を63%から66%まで3ポイント高めた。							

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要望調査のとりまとめが遅れたことによる、無線機の納品遅れ</li> <li>・物価上昇による無線機単価の上昇</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助事業者の発注期間を確保できるよう、無線機委託業務のスケジュールを早める必要がある。</li> <li>・物価上昇を反映した必要額を確保する必要がある。</li> </ul>
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・委託業務の発注及び無線機設置補助に係る補助金交付事務を迅速に行う。</li> <li>・物価上昇に対応できるよう予算要求を行う。</li> </ul>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 用途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明	
	○		支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○委託先については、無線機を使用した安全操作指導等の業務に精通している無線取扱業者である。</li> <li>○漁業団体への補助金については、当該事業補助金交付要綱により適切に支出されている。</li> </ul>
	○		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
○				



## 令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	88	県産ウニ復活プロジェクト事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-ア-⑤			
担当部課名	農林水産部 水産課	事業実施 (予定)年度	R5~R9 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(6)		
事業内容	県内で天然資源が枯渇状態にある介類(シラヒゲウニ、シャコガイ類等)の持続的利用のため、完全養殖の技術開発と実用化、および大量生産手法の開発に向けた条件整備を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度( R10年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額					11,958
		(b) 予算現額					11,958
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	0	0	0	0	11,958
	B. 執行済額						11,899
	うち交付金充当額						9,519
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)						99.5%
予算の状況の説明		シラヒゲウニ、シャコガイ類について、完全養殖技術を確立し、県内における陸上養殖のモデルケースを作出に向けて取り組んだ。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	種苗生産の技術開発と効率化	目標	-	-	-	生産効率化 試験3回	
		実績	-	-	-	生産効率化 試験3回	
	養殖用配合飼料の開発	目標	-	-	-	試験区設定 8試験区	
		実績	-	-	-	試験区設定 8試験区	
進捗状況説明	種苗生産効率化試験は、種苗生産に合わせて目標の3回実施できた。 養殖用配合飼料の開発については、配合飼料の原料となるアナアオサ、魚用配合飼料、クワ、キャベツ、ニンジン、カボチャ、バナナ、サツマイモの8試験区を設定して試験を実施できた。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (10年度)
	介類の種苗生産数 (過去5年平均35万匹との比較)	目標	-	-	-	年間2%増加 35.7万匹	-
		実績	-	-	-	25.1万匹	-
	介類の陸上養殖経営体数	目標	-	-	-	5経営体以上	-
		実績	-	-	-	5経営体	-
	【R10成果目標】 介類の種苗生産数 (過去5年間平均35万匹の10%以上増加)		目標	-	-	-	R10年度 38.5万匹 以上
達成状況説明	・介類種苗生産数については、ウニの中間育成での疾病発生やヒレジャコ種苗生産の不調により目標が達成できなかった。 ・介類陸上養殖経営体数は、5経営体となり目標を達成することができた。						

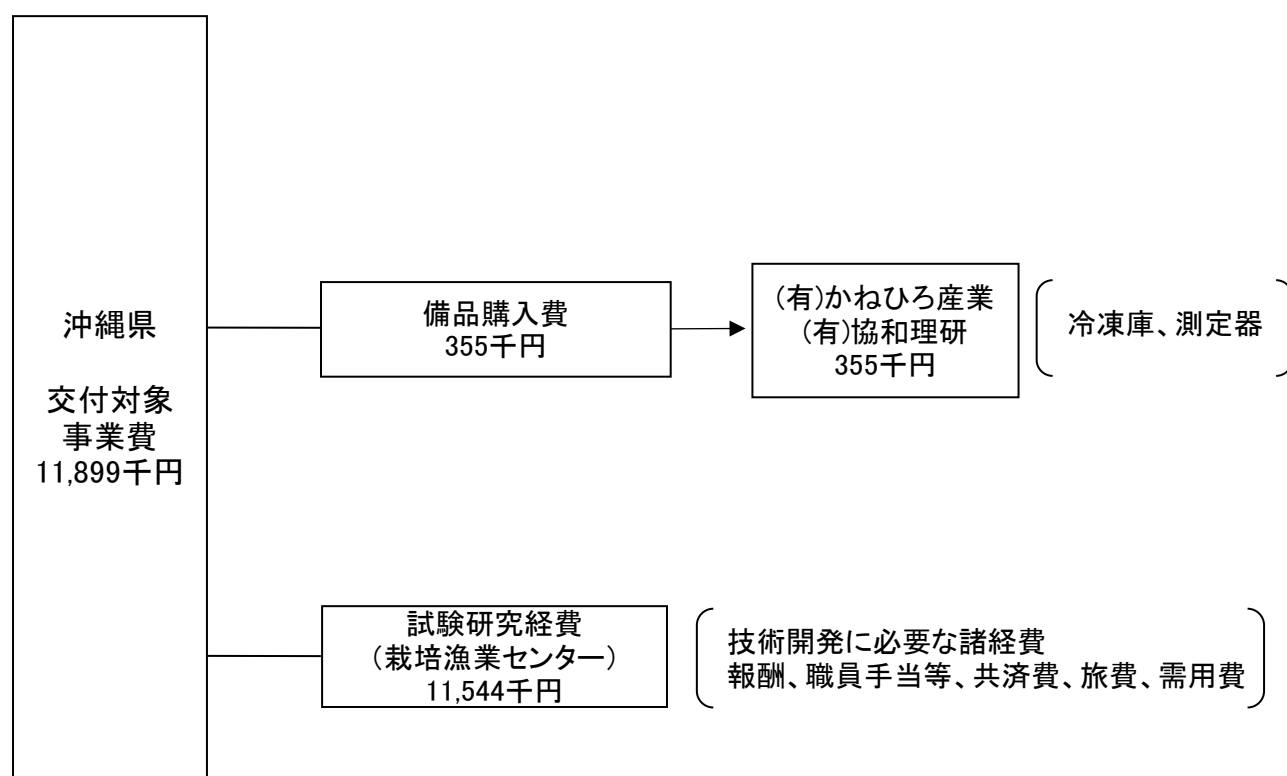
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介類種苗生産では疾病の発生により種苗生産数が大きく落ち込むことがある。</li> <li>・ウニ用配合飼料については基礎的な知見しかないため、原料ごとの給餌試験を実施する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種苗生産における疾病対策のため、浮遊幼生飼育時の精密ろ過海水使用や消毒の徹底が必要である。</li> <li>・ウニ用配合飼料の開発に向けて、原料を単一で給餌した際のウニ生殖巣のアミノ酸分析を行う必要がある。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- ・中間育成時には度々疾病による減耗が発生するため、紫外線照射海水による中間育成を行うことで疾病防除を図る。
- ・ウニ用配合飼料の開発に向けて、原料ごとのアミノ酸分析を配合飼料の組成に反映させることで、ウニ巢の身入り改善(身の量、身の味、身の色)を図ることができる。原料選定、分析、混合の検討を繰り返すことで、高成長、高付加価値化が実現できるウニ用配合飼料の開発を目指す。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
11,899	11,899	9,519	2,380	0	0	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○複数業者からの見積書により支出先を選定した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	66	地域農林水産物活用支援事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-ウ-③			
担当部課名	農林水産部 流通・加工推進課	事業実施 (予定)年度	H30～R6 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所			
事業内容	県産農林水産物を活用した「売れる商品」づくりに継続的に取り組むことのできる事業者の育成および他産業との連携強化支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 (    )						
予算額・執行額 【単位:千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	25,044		29,768		29,076
		(b) 予算現額	25,044		29,768		29,076
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	25,044	0	29,768	0	29,076
	B. 執行済額		24,298		27,665		25,449
	うち交付金充当額		19,439		22,132		20,359
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)		97.0%		92.9%		87.5%
予算の状況の説明		・執行率は87.5%であり、主に補助金の執行残が発生したことによるものである。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	個別支援事業者数	目標		10事業者	5事業者	10事業者	
		実績		12事業者	11事業者	10事業者	
	アシスタント支援件数	目標				10件	
		実績				10件	
	加工品グランプリの開催	目標	1回	1回	1回	1回	
		実績	1回	1回	1回	1回	
	販路開拓のための商談会の開催	目標				1回	
		実績				1回	
	商品改良に係る経費補助	目標				5件	
		実績				6件	
	【R4活動目標】他産業との連携	目標			2件		
		実績			6件		
	【R3活動目標】研修会	目標		5回			
		実績		6回			
	【R2活動目標】6次産業化人材育成研修の開催(1事業者あたり)	目標	3回				
実績		4回					
【R2活動目標】地域連携検討会 1回	目標	1回					
	実績	1回					
【R2活動目標】補助事業実施件数	目標	5件					
	実績	3件					
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公募によって10事業者を選定し、支援事業者として、各々の課題に応じた専門家らによる個別研修をリアルとオンラインで計4回程度実施した。</li> <li>・1月に加工品グランプリを開催した。審査員として県内外のバイヤーを招聘し、出展事業者による商品PRの場を設けることで商品の販路拡大に取り組んだ。</li> <li>・農林漁業者等と連携した7事業者(製造・飲食業・サービス業者)について、商品開発の取り組みを支援した。</li> </ul>						

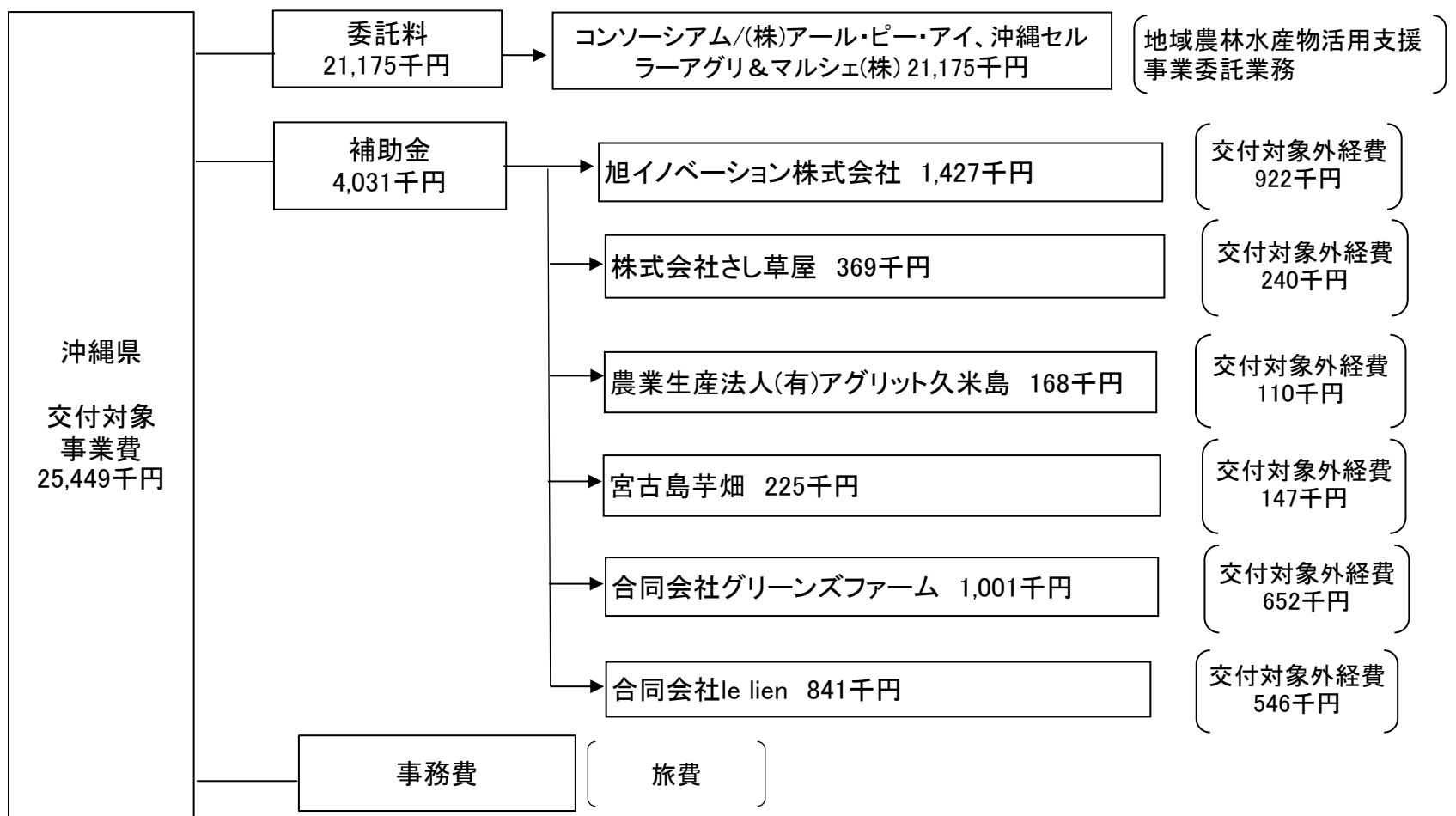
成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (〇〇年度)
	商談会参加事業者数:5件	目標				5件	
		実績				10件	
	【R4成果目標】商談等成立件数	目標		3件	3件		
実績			4件	5件			
達成状況説明	加工品グランプリへのバイヤー招聘等を通じて商談機会を提供し、10事業者がプレゼンテーションを行うなど商品PRを行い商談を行った。この他にも、個別指導を行う専門家からの紹介や補助事業の活用により、県内外の様々な商談会に参加している。						

R5-No.66

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6次産業化の取り組みには、生産から加工、流通までの専門的な知識や経験などの「ノウハウ」が必要であるが、事業者単体では持続的、一貫した取り組みを維持することが困難な場合がある。</li> <li>・ノウハウの習得に向けた人材育成の支援や、地域との連携体制の構築支援が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6次産業化の取り組みは、事業後の持続性やその波及効果を高めるため、事業者(産業)間の連携についても意識しながら支援を行う必要がある。</li> <li>・品質管理やマーケティングなど最新の知見を習得するための研修を実施するとともに、市町村や事業者間での情報共有を促進することで、人材育成や連携体制の構築に対する相乗効果が期待できる。</li> <li>・農林水産物を活用した加工・販売については、県の普及機関においても支援を行っていることから、普及機関との連携をより緊密に行うことで取組効果を高めることが期待できる。</li> </ul>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者の課題に応じて専門家による指導(個別相談、ハンズオン支援等)を行い、商品改良の実践や、商品開発に関する技能を習得するための研修会やテストマーケティング等の販路開拓を通じて自動化をサポートする。</li> <li>・県の普及機関や市町村との連携を密に行い、事業実施中及び事業終了後も見据えた事業者へのサポート体制を構築する。</li> </ul>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象 事業費	うち交付金 充当額			その他	交付対象外 経費
		うち交付金 充当額	うち県 負担金	うち市町村 負担金		
28,066	25,449	20,359	5,090	0	0	2,617



評価	点検項目	評価に関する説明
○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を考慮した上で選定しており、妥当であったと考えている。
○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○補助事業者の自己負担率は1/3であり、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。
○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については事業完了検査の際に帳簿等を確認し、事業目的に合致していることを確認しており、適正であった。
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

資金の流れ、費目・使途の点検評価



## 令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	67	農林水産物条件不利性解消事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-ウ-①			
担当部課名	農林水産部 流通・加工推進課	事業実施 (予定)年度	H24~R13 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(6)		
事業内容	本土との直接的結末点をもたない構造的な地理的不利性による取引条件の抜本的な改善を図るため、①他産地との価格形成に関する競争条件の平準化を図るための輸送費の補助、②北部・離島地域における条件不利性の改善を図るため域外出荷コストの輸送費相当分を補助、③持続可能な流通構造の確立に向けてモーダルシフトの促進を図るための必要な措置を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度( 年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 ■補助 □負担 □その他( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	2,824,292		2,178,055		2,168,978
		(b) 予算現額	2,824,292		2,068,055		1,994,978
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 110,000	0	▲ 174,000
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	2,824,292	0	2,068,055	0	1,994,978
	B. 執行済額		2,504,298		1,569,707		1,733,312
	うち交付金充当額		2,003,438		1,255,766		1,386,650
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)		88.7%		75.9%		86.9%
予算の状況の説明		上半期の天候不良等や補助申請者が当初見込みを下回ったこと等により、補助金の減額補正を行った。執行率は86.9%であり、天候不良等や県外需要の減少等により出荷量が減少したことや、委託事業や流通条件環境改善対策事業が事業計画変更や節減等により当初の見込みを下回った。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	①県産農林水産物の県外出荷量 (64,433トン)のうち(33,505トン)	目標	58,400トン	60,000トン	32,800トン	33,505トン	
		実績	47,678トン	47,497トン	30,232トン	28,256トン	
	②県産農林水産物の県外出荷量 (64,433トン)のうち(12,900トン)	目標	14,600トン	15,000トン	12,800トン	12,900トン	
		実績	11,919トン	11,874トン	6,270トン	13,454トン	
	③事業体アドバイザー派遣支援 (3事業体)	目標	-	-	3事業体	3事業体	
		実績	-	-	1事業体	1事業体	
	④地域アドバイザー派遣支援 (3市町村)	目標	-	-	3市町村	3市町村	
		実績	-	-	0市町村	5市町村	
⑤幹線共同輸送体制構築支援 (5事業体)	目標	-	-	5事業体	5事業体		
	実績	-	-	0事業体	0事業体		
⑥幹線コールドチェーン実証モデル支援 (2事業体)	目標	-	-	2事業体	2事業体		
	実績	-	-	1事業体	2事業体		
⑦地域間輸送体制構築支援 (3市町村)	目標	-	-	3市町村	3市町村		
	実績	-	-	0市町村	3市町村		
⑧地域コールドチェーン実証モデル支援 (3市町村)	目標	-	-	3市町村	3市町村		
	実績	-	-	3市町村	3市町村		
進捗 状 況 説 明	<ul style="list-style-type: none"> <li>①については、天候不良等の影響があり、目標を下回った。</li> <li>②については、23市町村等に補助金を交付し、出荷団体の輸送費負担の軽減を図った。</li> <li>⑥～⑧については、離島6市町村(宮古島市2部門、石垣市、伊江村、竹富町、与那国町)及び2事業体から応募があり、各団体において実証事業を開始した。</li> </ul>						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (〇〇年度)
	県外出荷販売額(R4年度比)	目標	-	-	1.01	1.01	-
		実績	-	-	1.04	0.99	-
	船舶輸送比率	目標	-	-	64%	65%	-
		実績	-	-	62%	65%	-
達 成 状 況 説 明	<ul style="list-style-type: none"> <li>県外出荷販売額については、R4年度比0.99となっており、目標に届かなかった。</li> <li>船舶輸送比率については、前年度より3%増加し、目標を達成した。</li> </ul>						

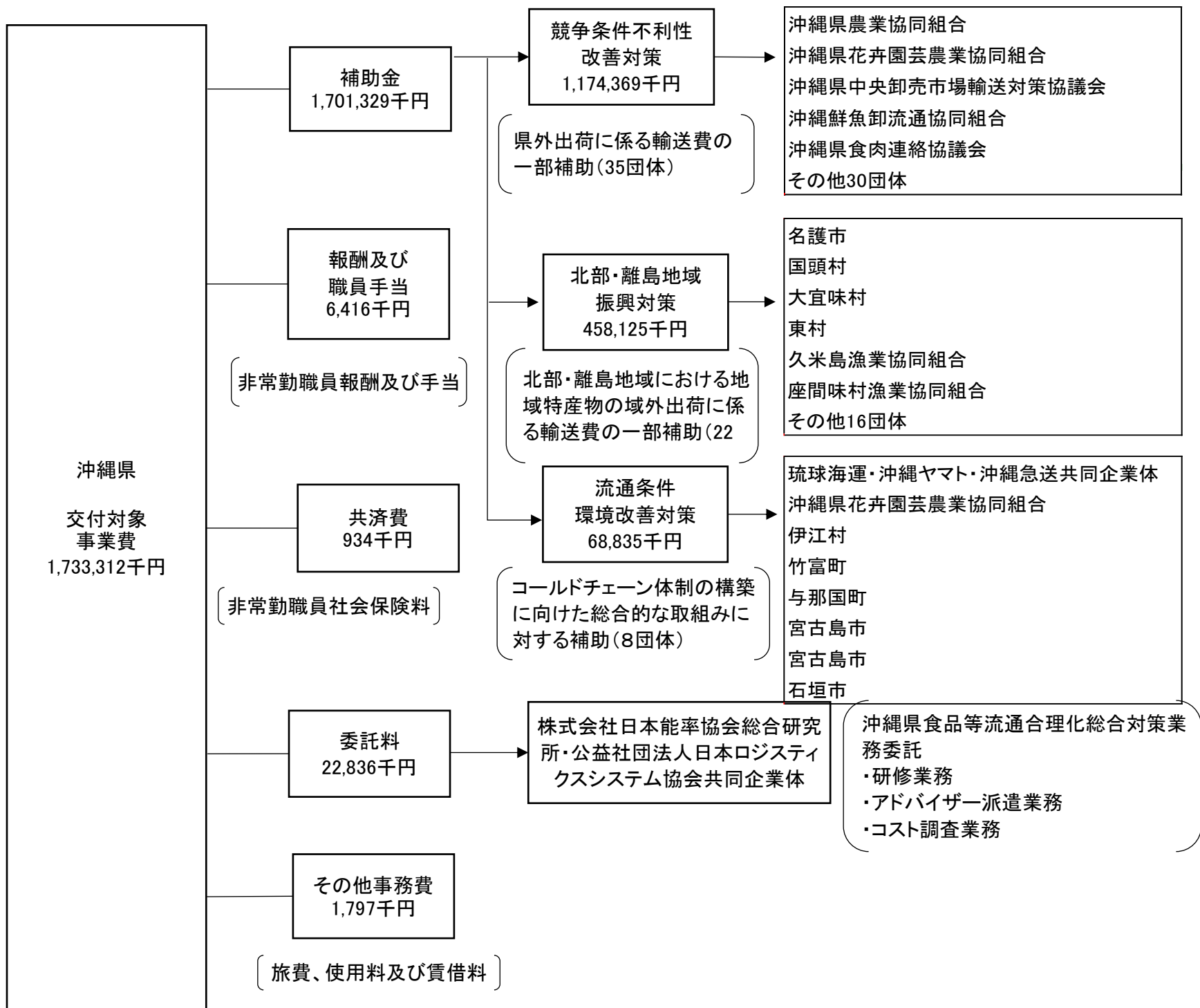


取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>①本事業は台風や自然災害等の影響により、年間出荷量が不安定となる。</p> <p>②輸送コストの軽減による販路拡大や新規出荷先の開拓等の効果が見られるが、事業の効果的な実施のため、より一層、事業者が行う輸送コスト削減の取組を促進する必要がある。</p> <p>③国において、生産年齢人口減やドライバー不足等を踏まえ、持続可能な物流ネットワークの構築の取組等を推進する総合物流施策大綱(2021→2025)が策定された。</p>	<p>①出荷量を安定させるため、台風や自然災害等による影響を最小限に抑える取組を行う必要がある。</p> <p>②販路拡大による効果を継続していくため、品質向上や安定的な生産体制の構築、スケールメリットを生かした輸送コスト削減のための共同出荷促進等の取組を事業者へ促していく必要がある。</p> <p>③国の総合物流施策大綱(2021→2025)に照らし、県産農林水産物の流通合理化を総合的に推進する必要がある。</p>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>①台風や自然災害等による影響を避けるための施設整備や作付け、出荷時期の検討等について取り組むよう関係機関と連携を図りながら事業者へ促していく。</p> <p>②③事業実績・事業効果を検証するほか、輸送コスト削減等に関する研修会の実施、事業者に対して安定的な生産体制の構築や県外出荷の共同出荷等の流通合理化に関する取組等を促していく。</p>		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
1,733,312	1,733,312	1,386,650	346,662	0	0	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の用途の点検・評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○交付申請書等から補助事業者の要件を確認し、適切に選定した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○補助額については、輸送実績を示す書類を確認した。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○委託業務先の選定にあたっては、令和4年度に3年計画事業として公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	68	県産農林水産物輸出体制構築事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所（第4章）	3-(7)-ウ-②			
担当部課名	農林水産部 流通・加工推進課	事業実施（予定）年度	H30～R6 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(6)		
事業内容	海外市場における県産農林水産物の輸出体制構築を目指し、定番化プロモーション、ブランディング強化、新規市場調査、輸出産地支援等を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度（    年度）						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（    ）						
予算額・執行額【単位：千円】	予算の状況		R3年度	R3年度（繰越）	R4年度	R4年度（繰越）	R5年度
		(a) 当初予算額	45,263		26,789		26,225
		(b) 予算現額	45,263		26,789		26,225
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
	A. 計 (b+d)		45,263	0	26,789	0	26,225
	B. 執行済額		37,508		24,425		22,298
	うち交付金充当額		30,007		19,540		17,838
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		82.9%		91.2%		85.0%
予算の状況の説明		・執行率は85.0%であり執行残の主な理由は、委託事業者において運営費(人件費・旅費等)に残が生じたことによるものである。					
活動目標（指標）及び進捗状況	R5活動目標（指標）		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	ブランディング、PR等実施	目標	5回	3回	5回	5回	
		実績	4回	5回	11回	6回	
	県産畜産物販売促進活動	目標	10回	4回	4回	4回	
		実績	16回	19回	13回	19回	
進捗状況説明	・香港、シンガポールにおける県産農林水産物を中心とした認知度向上・定番化促進事業を行ったが、県内を経由した輸出（牛など）が減少したことから、沖縄からの農林水産物の輸出実績は令和5年は39.2億円となり、前年より18.3%減少した。 ・豚熱の影響により豚肉が輸出出来ない状況であるため、牛肉、鶏卵、畜産物加工品を中心に販路拡大に努めた。						
成果目標（指標）及び達成状況	R5成果目標（指標）		基準値（〇〇年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（〇〇年度）
	沖縄からの農林水産物及び加工品の輸出額	目標	-	35億	33.1億	45.9億	-
		実績	-	40.5億	48億	39.2億	-
	輸出に結びついた事業者の件数	目標	-		5件	5件	-
		実績	-	12件	21件	24件	-
	県産畜産物輸出货量	目標	-	283.3トン	398.4トン	254トン	-
		実績	-	424.9トン	219.6トン	157トン	-
	達成状況説明	・海外シェフやバイヤーを沖縄に招聘して生産地案内を行ったり、海外ECサイト販路開拓では沖縄専用サイトの開設、高級飲食店等におけるメニューフェアを実施した。 ・鳥インフルエンザの影響により鶏卵の輸出货量が大幅に減少し、全体の輸出货量も減少している状況。今後は、鶏卵の輸出货量の回復、牛肉や加工品の輸出货量の増加を見込んでいる。					

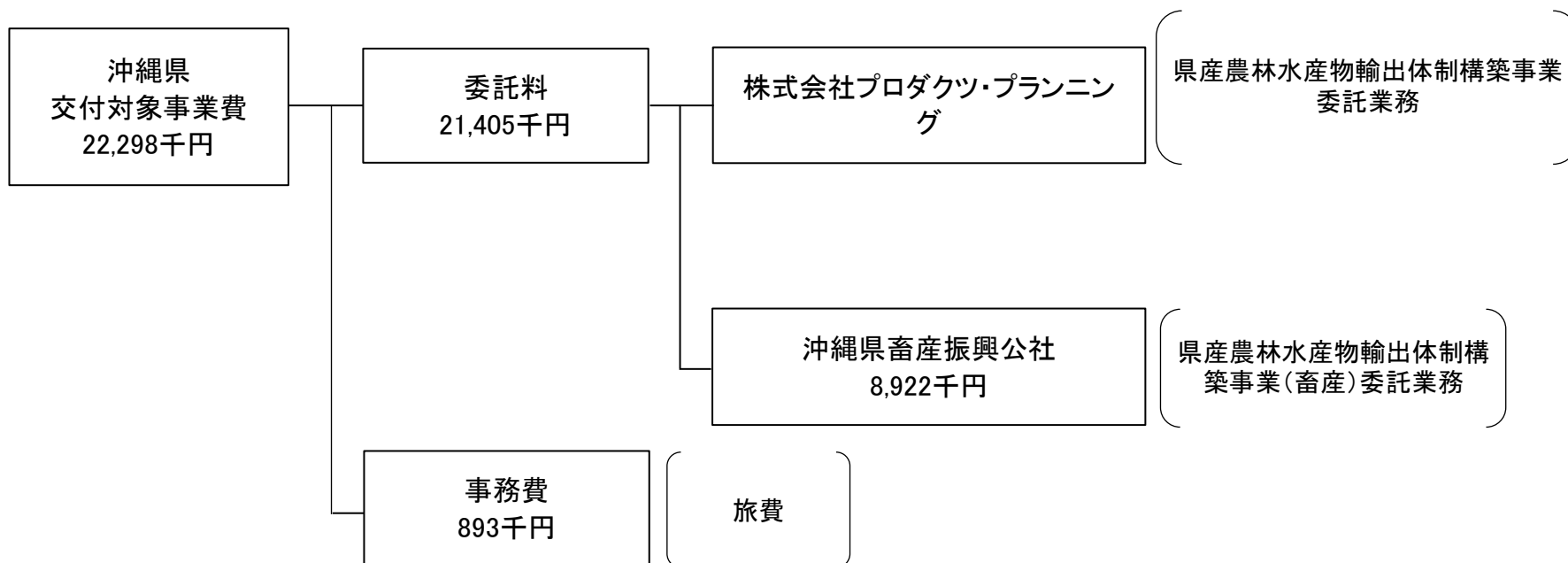
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	①海外市場については他国産や日本の他県との競争も激化しており、県産農林水産物の定番化が厳しい状況にある。 ②畜産物の輸出に関して、商流や商法の違いを理解する必要があり、現地の畜産物流通状況や食文化に熟知した機関との関係構築が必要である。 ③畜産物の輸出にあたっては、輸出可能な品目・対象国が限られている。(生鮮豚肉及び鶏肉の輸出ができない状況) ④牛肉の輸出にあたっては、相手国からの輸出認定を取得したと畜場でと畜する必要がある。	①他産地との差別化を図るため、さらなる県産農林水産物のブランディングが必要である。 ②現地での畜産物販売事例、流通状況や広報活動を調査し取引に関する慣行及び検疫に関する制度の調査を実施する。 ③カントリーリスク低減のため、新規市場開拓に向けた調査を行い、輸出先として見込みのある国に対し定番化を目指した取組を行う。 ④輸出対象国の拡大や物流ルートの改善により、輸出拡大が見込まれる品目について重点的に支援することで輸出量の増加を図る。

**今後の取り組み方針**

- ①生産者の輸出モチベーション向上を促し、新たな産品を輸出できる体制を構築する。
- ②他産地との差別化を図るため、さらなる県産農林水産物のブランディングに向けて継続した情報発信を行う。
- ③新規市場での市場価格や流通経路等の調査、現地販売員の指導、消費者へのPR活動を行う。
- ④八重山食肉センターの施設改修により、石垣から直接、台湾・シンガポールへ牛肉の輸出が可能となる見込みであることから、牛肉の輸出拡大に向けた取組を強化する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
22,298	22,298	17,838	4,460	0	0	0



資金の流 れ、費 目 ・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務先の選定にあたっては、株式会社プロダクツ・プランニングは公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、また、沖縄県畜産振興公社は組織、実績、知識等を勘案した上で随意契約により選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	75	分蜜糖振興対策支援事業費	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-ウ-⑤			
担当部課名	農林水産部 糖業農産課	事業実施 (予定)年度	H24~R13 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(6)		
事業内容	さとうきび生産農家の収入を確保するため、分蜜糖製造事業者に対して、気象災害等による製造コスト上昇分の支援、製糖設備の整備支援等を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(6年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	848,316		1,184,108		754,010
		(b) 予算現額	647,022		795,224		889,249
		(c) 増減額(b-a)	▲ 201,294	0	▲ 388,884	0	135,239
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	647,022	0	795,224	0	889,249
	B. 執行済額		638,406		794,596		888,879
	うち交付金充当額		510,725		635,677		711,103
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.7%		99.9%		100.0%
予算の状況の説明		・気象災害等影響緩和対策及び離島条件格差是正補填対策において、当初計画の生産見込数量に対し、さとうきびの生産実績が減少したことによる支援額の増加等により予算現額が増となった。 ・執行率は100.0%であり、全ての事業を計画通り執行できた。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	①気象災害等影響緩和対策	目標	4工場	9工場	9工場	9工場	
		実績	5工場	9工場	9工場	8工場	
	②製造合理化対策	目標	4工場	3工場	5工場	5工場	
		実績	4工場	4工場	4工場	5工場	
	③離島条件格差是正補填対策	目標	2工場	2工場	2工場	2工場	
		実績	1工場	1工場	2工場	2工場	
	④分蜜糖工場の高度化に関する調査	目標	-	-	1件	-	
		実績	-	-	1件	-	
進捗状況説明	・気象災害等影響緩和対策については、気象災害等による影響のため、分蜜糖製造コストが増嵩し対策を要した製糖工場並びに新型コロナウイルスの影響による新たな生活様式の実施・導入を行うため支援を要した製糖工場は7社8工場となった。 ・製造合理化対策については、5工場で実施し、全て年度内に完了することができた。 ・離島条件格差是正補填対策については、当初計画どおり小規模離島の2工場で実施となった。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (R6年度)
	全量買い入れを行った分蜜糖製糖工場	目標	-	9工場	9工場	9工場	9工場
		実績	-	9工場	9工場	9工場	-
	分蜜糖工場の高度化に関する基礎資料の作成	目標	-	-	1件	-	-
		実績	-	-	1件	-	-
	達成状況説明	・全量買い入れを行った分蜜糖製糖工場は、9工場となり、目標達成できた。 ・分蜜糖製造事業者に対し、気象災害等影響緩和対策、製造合理化対策等の支援を過年度から継続して実施した結果、製糖期間を通じて分蜜糖製糖工場の適正操業が図られており、さとうきび生産農家の経営安定及び地域社会の維持・形成に寄与している。					



取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・事業実施主体である(公社)沖縄県糖業振興協会や分蜜糖製造事業者、関係団体等と連携し、当初計画の調整・精査、定期的な執行状況の把握等、事業執行体制の強化に取り組んだことにより、円滑かつ適正な事業執行が図られた。</p> <p>・分蜜糖製造事業者は、製糖工場の適正操業を図るため、製糖操業終了毎に設備のメンテナンスや老朽化に伴い使用限界にある設備の更新等、設備投資が必要不可欠である。</p>	<p>・計画的な事業執行及び事業効果の早期発現に向けて、(公社)沖縄県糖業振興協会、分蜜糖製造事業者、関係団体等と連携し、当初計画の調整・精査、執行状況の定期的な把握等、引き続き、事業執行体制の強化に努める必要がある。</p> <p>・分蜜糖製造事業者は、製糖操業終了後の5月～11月の間に設備のメンテナンスや整備等を完了し、次期製糖期に備える必要があり、設備整備の可能な期間が限られていることから、製造合理化対策については、引き続き、事業の早期着手に取り組む必要がある。</p>

**今後の取り組み方針**

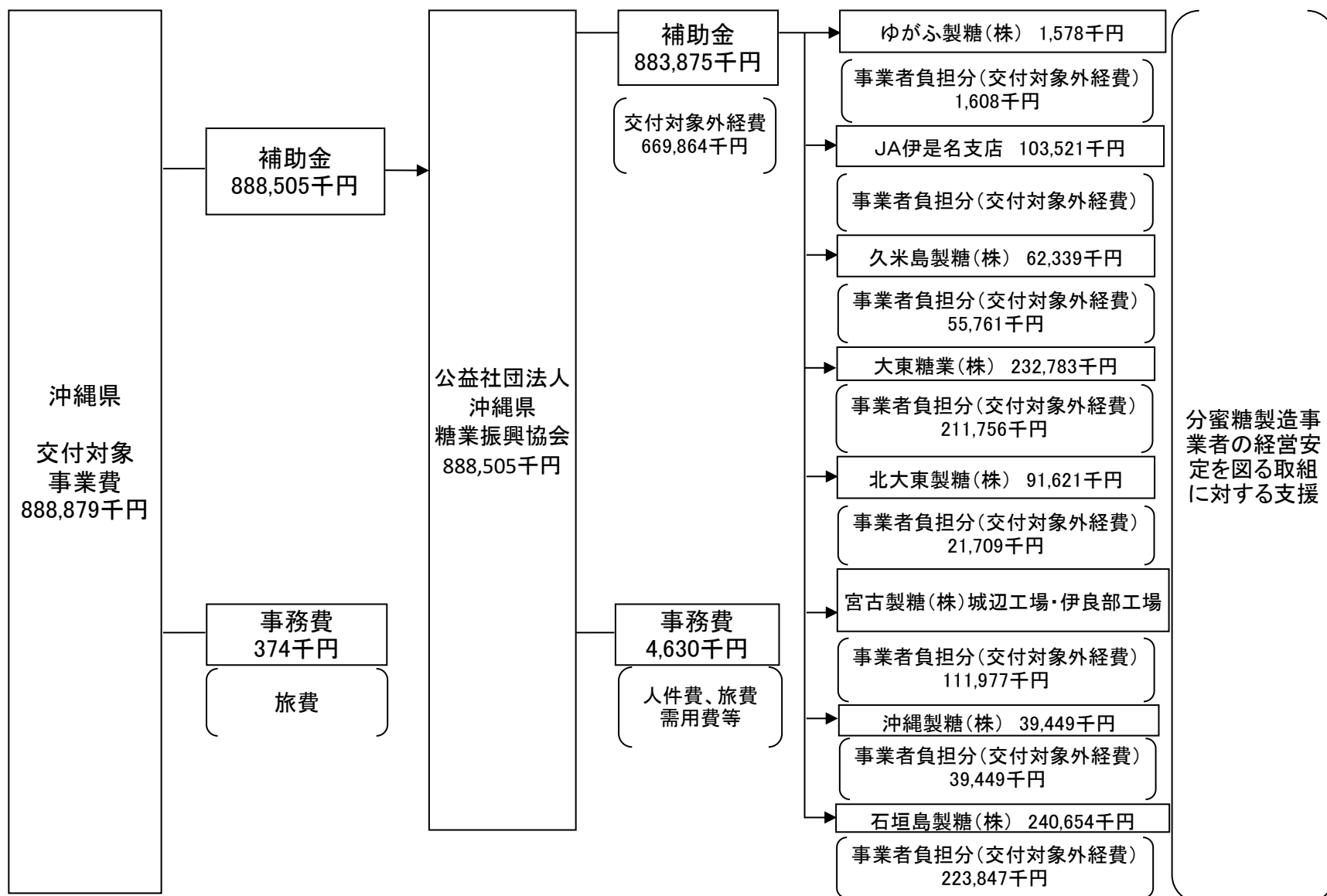
・気象災害等影響緩和対策、離島条件格差是正補填対策については、(公社)沖縄県糖業振興協会と支援額に関する協議を早期に行い、分蜜糖製造事業者の経営安定に資するよう、早期執行に努める。

・製造合理化対策については、(公社)沖縄県糖業振興協会、分蜜糖製造事業者、関係団体等と連携し、早期の事業着手が可能となるよう、当初計画の十分な調整・精査を行うとともに、定期的に進捗状況の確認を行い、事業完了に遅れが生じないよう努める。また、年度内完了が難しい設備整備については、分離発注等効率的な事業執行に向けた検討を行い、実施設計等の調整・協議に時間を要する設備整備については、十分な事前調整を行う。

**資金の流れ**

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
1,558,743	888,879	711,103	177,776	0	0	669,864



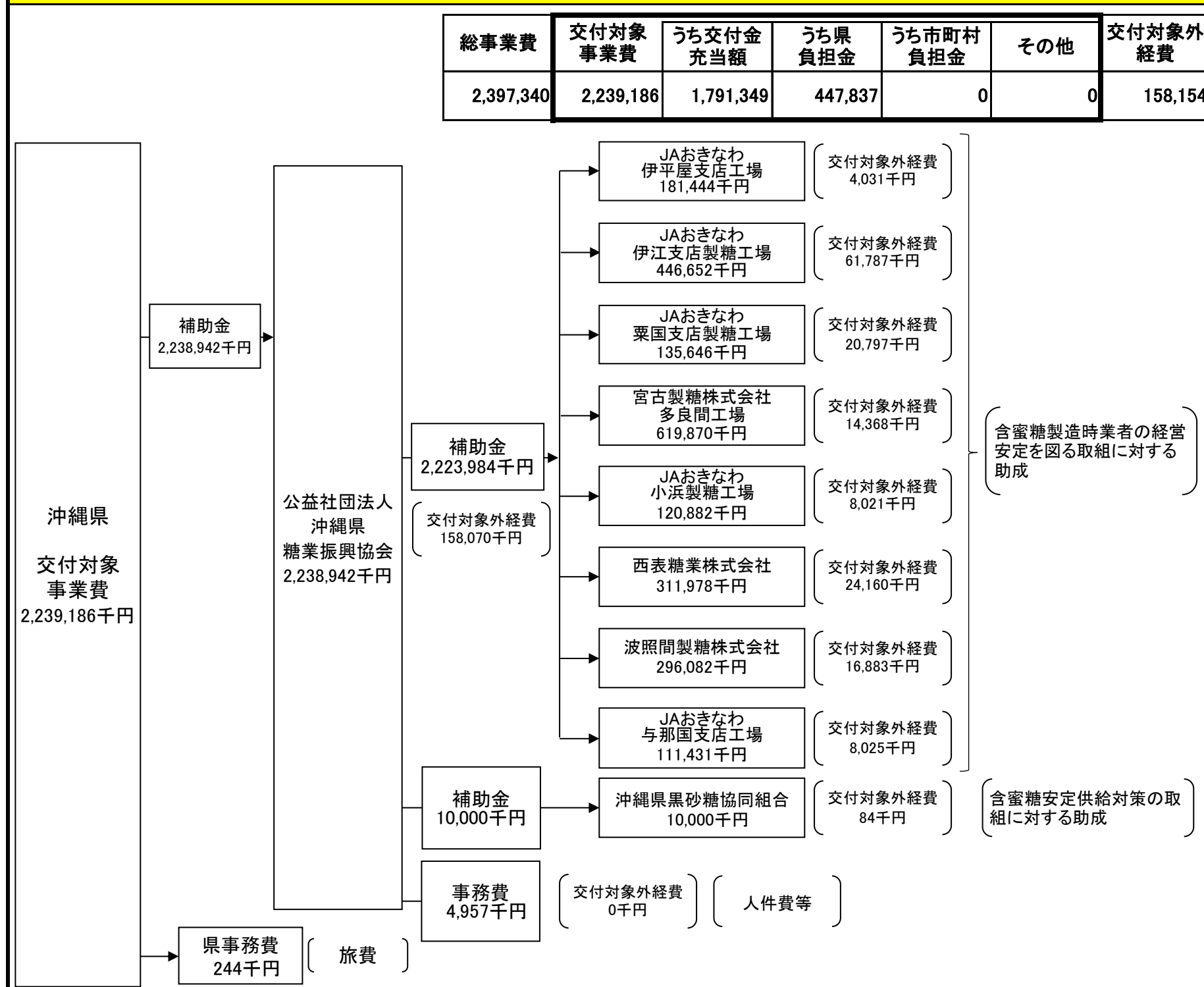
資金の流し、費用	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流し、費用	○	支出先の選定方法は妥当か。	○(公社)沖縄県糖業振興協会は、さとうきび及び糖業に関する専門的知識を有する組織であり、本事業の事業実施主体として妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○受益者である分蜜糖製造事業者は総事業費の4割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	76	含蜜糖振興対策事業費	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-ウ-⑤			
担当部課名	農林水産部 糖業農産課	事業実施 (予定)年度	H24~R13 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所			
事業内容	製糖業の経営基盤強化と高度化推進						
事業内容	さとうきび生産農家の収入を確保するため、含蜜糖製造事業者に対し、含蜜糖製造コストの不利補正、製糖設備整備、安定供給等に対する支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 (    )						
予算額・執行額 【単位:千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,505,055	0	1,667,456	0	2,398,248
		(b) 予算現額	2,180,109	0	2,544,079	0	2,254,009
		(c) 増減額(b-a)	675,054	0	876,623	0	▲ 144,239
		(d) 前年度繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	2,180,109	0	2,544,079	0	2,254,009
	B. 執行済額		2,175,648	0	2,543,799	0	2,239,186
	うち交付金充当額		1,740,518	0	2,035,039	0	1,791,349
	C. 次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.8%		100.0%		99.3%
予算の状況の説明		・執行率は99.3%であり、計画的に執行できた。					
活動目標(指標)及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	①製造コスト不利補正の対策	目標	8工場	8工場	8工場	8工場	
		実績	8工場	8工場	8工場	8工場	
	②気象災害等影響緩和対策	目標	8工場	8工場	8工場	8工場	
		実績	8工場	8工場	8工場	8工場	
	③製造合理化対策	目標	2工場	4工場	2工場	6工場	
		実績	2工場	4工場	2工場	6工場	
	④安定供給対策	目標	8工場	8工場	8工場	8工場	
		実績	8工場	8工場	8工場	8工場	
進捗状況説明	・県内含蜜糖製造事業者8工場に対して、生産条件不利補正対策、気象災害等影響緩和対策、製造合理化対策等の取組に対する支援を行った。 ・製造合理化対策は、6工場で実施し、工場の安定操業に寄与している。 ・含蜜糖安定供給対策では、含蜜糖製造に関する課題解決、品質検査指導、研修等を行い、製糖技術者の育成を図る取組を実施した。 ・事業の早期執行を継続して実施し、生産条件不利補正対策、気象災害等影響緩和対策等の支援を行った結果、含蜜糖製造事業者の経営安定に寄与している。						
成果目標(指標)及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (H29年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (R6年度)
	全量買い入れを行った含蜜糖製糖工場	目標	—	8工場	8工場	8工場	—
		実績	—	8工場	8工場	8工場	—
	【R6成果目標】 全量買い入れを行った含蜜糖製糖工場	目標					8工場
達成状況説明	・全量買い入れを行った含蜜糖製糖工場は、実績が8工場となり、目標を達成することができた。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>①含蜜糖製造事業者は、製糖終了後の4月～11月頃間に次期製糖期に向けた設備整備等を行っていることから、事業着手時期が遅れると含蜜糖製造事業者の資金繰り悪化や設備整備の遅れによる次期製糖開始の遅れにつながり、さとうきび生産者や製糖事業者の経営圧迫が懸念される。 小規模離島で行われている含蜜糖の生産は、地域の農業・経済を支える重要な産業となっている。一方、含蜜糖の生産は、地理的、自然的条件等が不利なことから、安定生産に課題を抱えており、支援体制の継続が必要である。</p> <p>②成果目標である全量買い入れを行った含蜜糖製糖工場について、R5年度は目標が達成された。今後もさとうきびの増産に対応できるよう、含蜜糖製造事業者の経営安定、黒糖の品質向上に向けた継続した取り組みが必要である。</p>	<p>①計画的な事業執行及び事業効果の早期発現に向け、継続的に関係団体との連携に取り組み、事業執行体制の強化を図る必要がある。 工場の安定操業により、含蜜糖地域の生産農家が安心してさとうきびを生産できる状況を確認していく必要がある。</p> <p>②今後も成果目標達成のため、さとうきびの増産に対応できるよう、含蜜糖製造事業者の経営安定、黒糖の品質向上に向けた継続した取り組みが必要である。</p>
	今後の取り組み方針	
<p>①含蜜糖地域のさとうきび農家と含蜜糖製造事業者は、車の両輪のような関係にあり、これにより、地域経済・社会の維持が図られている。工場の適正操業が行われることにより、さとうきびの適期収穫や適期栽培管理が行えるという観点から、含蜜糖製造事業者が抱える喫緊の課題に対して必要な取り組みを継続し、総合的な成果目標である含蜜糖製造事業者の経営安定の達成を図る。</p> <p>②成果目標達成に向けて、JA、生産組合、製糖事業者等との連携を強化し、さとうきび増産及び品質向上に向けた取り組みを行う。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



評価	点検項目	評価に関する説明
○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○(公社)沖縄県糖業振興協会は、さとうきび及び糖業に関する専門的知識を有する組織として、本事業の事業実施主体として適正である。</p> <p>○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



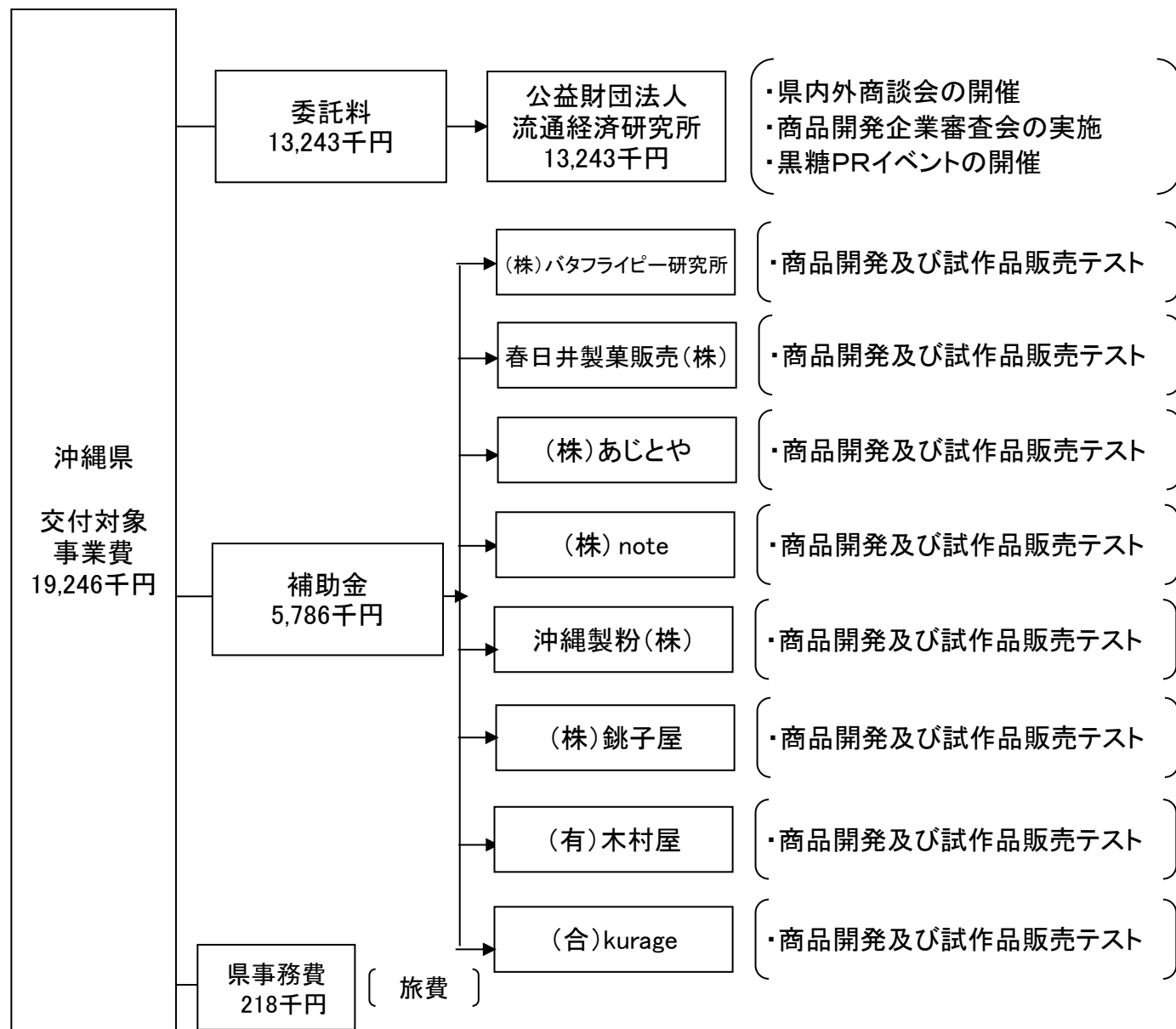
## 令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	77	沖縄黒糖販路拡大推進事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-ウ-⑤			
担当部課名	農林水産部 糖業農産課	事業実施 (予定)年度	R2~R6 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(6) Ⅲ-9		
事業内容	業界団体及び黒糖製造事業者において黒糖の販路拡大の支援が必要なことから、新たな需要開拓に取り組む。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
予算額・執行額 【単位:千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	35,092	0	25,330	0	25,518
		(b) 予算現額	35,092	0	25,330	0	25,518
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	35,092	0	25,330	0	25,518
	B. 執行済額		18,400	0	16,659	0	19,246
	うち交付金充当額		14,720	0	13,327	0	15,397
	C. 次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		52.4%		65.8%		75.4%
予算の状況の説明		沖縄黒糖の需要拡大や消費拡大を図るため、商談会の開催に要する経費として委託料、商品開発の補助支援として補助金を計上した。 執行率は75.4%であり、主に補助金の執行残が発生したことによるものである。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	県外における商談会の開催	目標	2回	2回	2回	1回	
		実績	2回	1回	2回	1回	
	県内における商談会の開催	目標	1回	1回	1回	1回	
		実績	1回	1回	1回	4回	
	観光や展示会等におけるPR活動の実施	目標	実施	実施	-	実施	
実績		実施した	実施した	-	実施した		
進捗状況説明	沖縄県黒砂糖協同組合および含蜜糖製糖事業者、委託事業者にて県内外における商談会や、観光や展示会等におけるPR活動を実施した。商談会では102社と名刺交換を実施し、商談成約に向け取組は継続中である。また、PR活動は、県内2回、県外1回開催し、黒糖の販売促進に努めた。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (R6年度)
	沖縄黒糖を使用した商品の生産・販売を行う企業数	目標	-	4社	4社	4社	-
		実績	-	5社	8社	8社	-
	【R6成果目標】 沖縄黒糖を使用した商品の生産・販売を行う企業数		目標	-	-	-	-
達成状況説明	成果目標である沖縄黒糖を使用した商品の生産・販売を行う企業数は8社であり、目標は達成できた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>当面、新型コロナウイルス感染症禍の影響が残る中で、既存需要および新規需要の掘り起こしが必要である。</p> <p>また、商談会については、県外のイベント会場でPRも兼ね幅広く周知を行ったのち、バイヤーを現地に招致する形で実施した。商談後の成約に結びつく精度の高い商談会とするためには、開催方法の工夫と精査、ノウハウの構築が必要である。</p>	<p>商談後の成約に結びつく精度の高い商談会とするためには、今後も引き続き開催方法の工夫と精査、ノウハウの構築を図る。</p> <p>また、新規需要の開拓のため商品開発にかかる情報発信の強化を図る。</p>
<b>今後の取り組み方針</b>		
引き続き、商談会の開催による新たなユーザーを獲得や、商品開発の補助支援に取り組みつつ、観光や展示会等におけるPR活動の実施に取り組む。		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
21,355	19,246	15,397	3,849	0	0	2,109



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○予算規模は、委託業務量を勘案した予算規模となっており、適正である。</p> <p>○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



## 令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	79	沖縄県産豚肉消費活性化事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-ウ-②			
担当部課名	農林水産部 畜産課	事業実施 (予定)年度	R2~R6 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所			
事業内容	沖縄県のアグーブランド豚肉を県外消費者にPRすることでアグーブランド豚肉の認知度向上及び販路拡大を図る。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(令和6年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	18,695	—	20,000	—	14,213
		(b) 予算現額	18,695	—	20,000	—	14,213
		(c) 増減額(b-a)	0	—	0	—	0
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	0
		A. 計(b+d)	18,695	—	20,000	—	14,213
	B. 執行済額		18,477	—	19,778	—	13,630
	うち交付金充当額		14,781	—	15,823	—	10,904
	C. 次年度繰越額		0	—	0	—	0
	執行率(%) (B/A)		98.8%	—	98.9%	—	95.9%
予算の状況の説明		・執行率は95.9%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	アグーブランド豚肉の魅力発信 1回	目標	—	2回	2回	1回	
		実績	—	4回	3回	—	
	バイヤーツアーの実施 1回	目標	—	—	1回	1回	
		実績	—	—	1回	—	
	高級飲食店、量販店でのフェア 1回	目標	—	1回	1回	1回	
		実績	—	4回	8回	16回	
	(参考)アグーブランド豚肉を生産している畜産農家及びその販売代理店を対象としたハンズオン支援の実施	目標	—	0回	0回	2回	
		実績	—	0回	0回	2回	
(参考)販促ツールの作成	目標	—	0回	0回	1回		
	実績	—	0回	0回	1回		
進捗状況説明	当初計画ではR5活動目標として「アグーブランド豚肉の魅力発信」及び「バイヤーツアーの実施」を計画していたが、R4までの実施内容等を踏まえ、「畜産農家及びその販売代理店を対象としたハンズオン支援」や「販促ツールの作成」がより効果的な取組であると判断し、内容を変更し事業を実施した。 R5は「高級飲食店、量販店でのフェア」の回数も目標値を大きく上回る成果を上げており、その他の取組についても目標値を達成した。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (R6年度)
	アグーブランド豚肉を県外に販売する商談の 成立件数:2件	目標	—	—	2件	2件	—
		実績	—	—	21件	16件	—
	【R6成果目標】 県産豚肉県外出荷量		目標	—	—	—	R3年度比 6%以上増
達成状況説明	令和5年度に実施した高級飲食店等でのメニューフェア等の実施により、アグーブランド豚肉を県外に販売する商談の成立件数が16件となり、目標を達成した。						

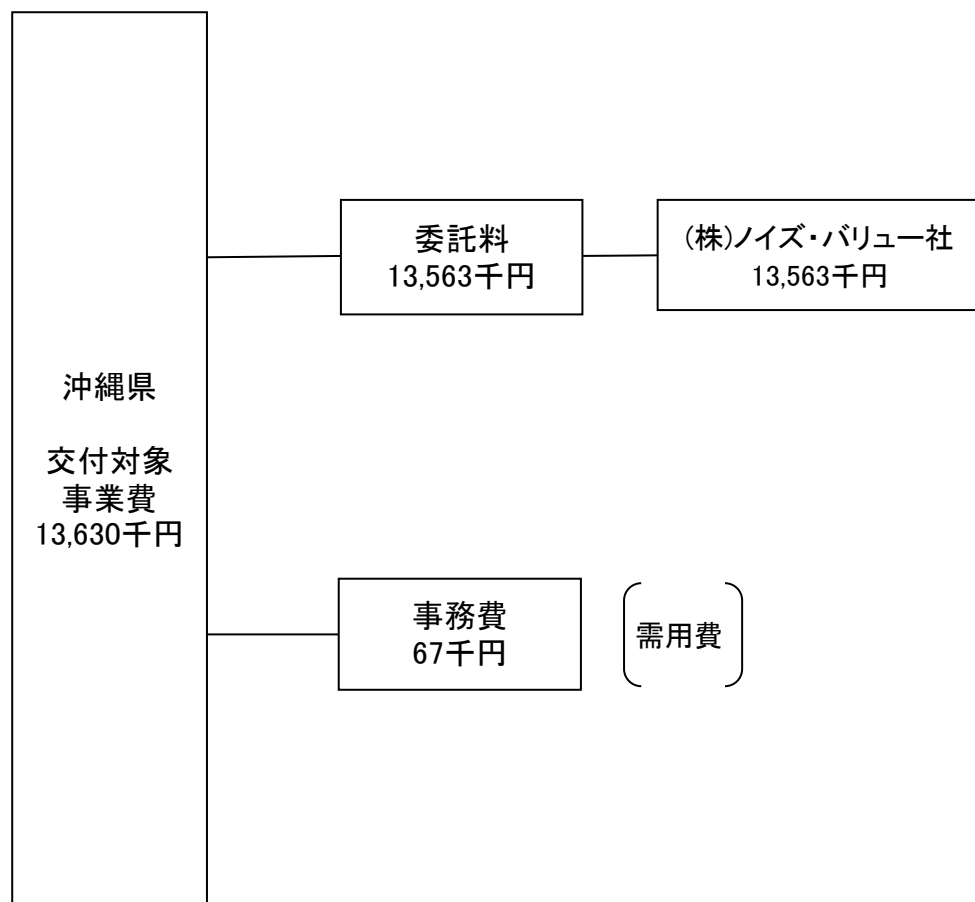
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アグーブランド豚は成長速度や歩留まりの悪さ等の要因から一般豚に比べ生産コストが高い。また、県外へ流通する場合にも他地域の商品と比較し、配送コストが掛かる。</li> <li>・高単価で取引が可能な高級飲食店等では、月毎や季節毎で定番メニューの構成を変更する場合も多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アグーブランド豚の販路拡大を進めるためには、コスト面でのデメリット以上に、魅力(付加価値)が備わった素材であるということを理解してもらう必要がある。</li> <li>・「高価格・高付加価値」の商品として親和性の高いターゲット(高級飲食店等)を中心に販路開拓を進める。</li> <li>・アグーブランド豚を取り扱う事業者の数を増やし、恒常的な消費が可能となるよう販促活動を継続し、新規事業者を開拓する。</li> <li>・県外と比較し、輸送費が抑えられる県内の高級飲食店やリゾートホテルへの販路拡大を検討する。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- ①ブランディングの強化  
アグーブランド豚の持つ歴史やストーリー、肉質、栄養成分等、付加価値となる情報を整理し、それを効果的に発信することで、バイヤーや消費者に信頼感を与え、導入や購買意欲の向上に繋げる。
- ②有効なターゲットの選定  
アグーブランド豚のような高付加価値な商品は高級レストランやホテル、百貨店など、高級志向の顧客層から需要が高いため、こうしたターゲットを中心とした販路開拓を進める。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
13,630	13,630	10,904	2,726	0	0	0



資金の 使途の 流れ、 費目 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務先の選定に当たっては、公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、事業報告書等进行检查し、適正である事を確認した。

## 令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	58	AIを活用した作物障害画像診断に向けた体制整備事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-オ-③				
担当部課名	農林水産部 農林水産総務課	事業実施 (予定)年度	R4~R8 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	地域特性を最大限に生かした 農林水産技術の開発と普及			
事業内容	人為的な病害虫及び栄養障害作物を作出し、画像データを集積する。現場での画像データも同時に集積する。							
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和13年度)							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )							
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度		
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額			77,700		69,495	
		(b) 予算現額			77,700		69,495	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
		(d) 前年度繰越額			0		0	
		A. 計(b+d)	0	0	77,700	0	69,495	
	B. 執行済額				67,540		66,976	
	うち交付金充当額				53,890		53,580	
	C. 次年度繰越額				0	0	0	
	執行率(%) (B/A)				86.9%		96.4%	
予算の状況の説明		・執行率は96.4%で、離島における病害虫の発生減に伴う調査補助員(会計年度任用職員)の旅費の執行残。						
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況					
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	統合データベースに用いる画像データ集積のための障害作物の作出		目標	-	-	作出する	作出する	
		実績	-	-	作出した	作出した		
進捗状況説明		病害虫においてはサトウキビ、カンショ、オクラ、ゴーヤー及びマンゴーにおいて、人為的接種により被害作物を作出した。また、栄養障害については、サトウキビ、オクラ及びゴーヤーにおいて、水耕栽培により、栄養障害作物を人為的に作出した。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (13年度)	
	統合データベースに用いる画像データ数		目標	-	-	10,000枚	12,500枚	-
			実績	-	-	12,116枚	17,776枚	-
	【R13成果目標】 診断システム利用者の農薬の散布回数		目標	-	-	-	-	1割減
	【R8成果目標】 病害虫診断正答率		目標	-	-	-	-	80%
達成状況説明		人為的に障害を起こした作物及生産やほ場における障害作物の画像を撮影後、アノテーション(AIが学習する箇所をマーキングすること)を行うことにより、統合データベースに用いる教師画像データを17,776枚作成し、目標を達成した。						

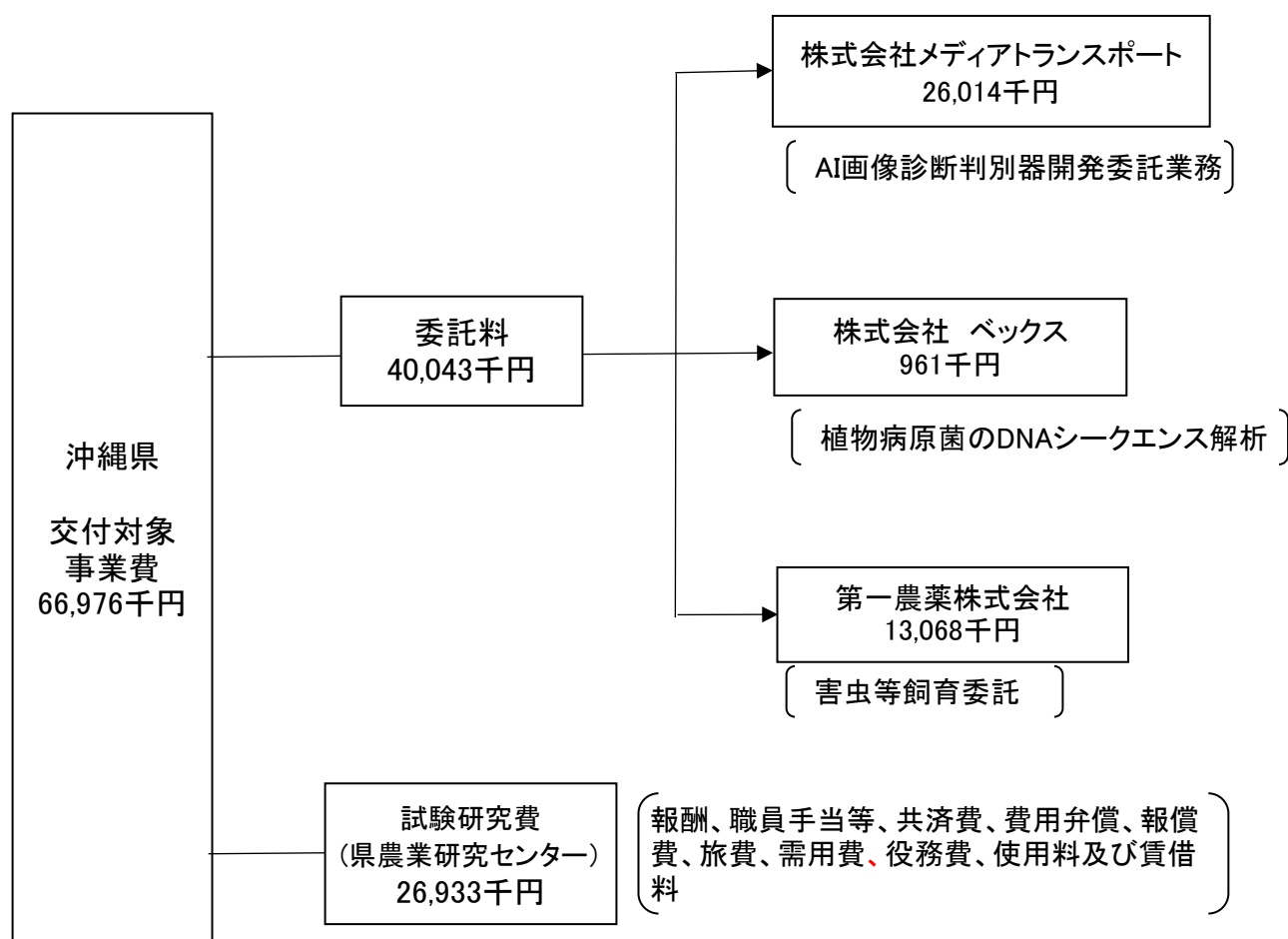
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	①障害が不定形(形が不規則)な症状については、当初障害当たり1,000枚を想定していたが、2,000枚程度必要であることがわかった。 ②障害の教師画像データのみでなく、利用者が障害と見間違えそうな健全植物の症状についても収集が必要である。 ③機械学習方法は日進月歩で進んでおり、新たな手法を取り入れる必要がある。	①アノテーションの手法について、改善を行い、判別率向上につながるか検証を行う。 ②現地ほ場でのデータ収集を強化し、現場で見られる類似症状の教師画像データを取得する必要がある。

今後の取り組み方針

- ①障害の種類を分類し、それぞれに適したアノテーションの方法について、研究を進める。
- ②画像の収集が遅れている障害について、障害作物の作出を重点的に行い、画像収集を加速させる。

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
66,976	66,976	53,580	13,396	0	0	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流 点検 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、委託成果審査会を開催し事業の内容や進捗状況を審査した上で契約を行ったことから、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業報告書等进行检查し、適正である事を確認した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	59	地域を支えるサトウキビ大規模栽培体系構築事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-オ-③			
担当部課名	農林水産部 農林水産総務課	事業実施 (予定)年度	H30~R8 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所			
事業内容	①収量への影響が少ない省力技術の開発植付け技術の開発 ②農業機械の自動操舵およびドローンによる各種作業の実施と作業時間、面積の検証 ③新規育種素材を活用した交配後代集団の特性調査						
効果発現年度	□当年度 ■後年度(令和13年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算 の 状況	(a) 当初予算額	47,824		37,052		33,453
		(b) 予算現額	47,824		37,052		33,453
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
	A. 計 (b+d)		47,824	0	37,052	0	33,453
	B. 執行済額		44,241		33,273		28,710
	うち交付金充当額		35,393		26,618		22,968
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		92.5%		89.8%		85.8%
予算の状況の説明		・執行率は85.8%であった。会計年度任用職員の募集に際して応募が少なかったため、主に報酬等の人件費に執行残が発生した。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	①株出し栽培での管理作業における収量性への評価(3工程) プランタ改良による植付け評価	目標			収量への影響が少ない省力技術の探索(3工程)	収量への影響が少ない省力技術の探索(3工程)	
		実績			収量への影響が少ない省力技術探索実施(3工程)	収量への影響が少ない省力技術探索実施(3工程)	
	②農業機械の自動操舵、ドローンの作業性および効果試験(3作型)	目標			自動操舵およびドローンによる各種作業の検証(3作型)	自動操舵およびドローンによる各種作業の検証(3作型)	
		実績			自動操舵およびドローンによる各種作業探索実施(2作型)	自動操舵およびドローンによる各種作業探索実施(3作型)	
	③種属間交雑後代の生育特性評価試験(8系統)	目標			交配後代集団の特性調査(8系統)	交配後代集団の特性調査(8系統)	
		実績			交配後代集団の特性調査の実施(12系統)	交配後代集団の特性調査の実施(13系統)	
	進捗状況説明	①収量への影響を確認するため、1.植付け、2.株揃え、3.根切り排土作業の省略および、ビレットプランタの発芽促進について実施した。 ②ドローンにおける1.春植え、2.株出し、3.夏植えほ場での画像取得法開発と解析を行うとともに、ドローンによるセンシング等の委託事業を実施した。 ③育種に関する委託事業において、新規系統の評価やゲノム情報の整備を行った。また、3次選抜10系統、5次選抜3系統を評価し次の試験に供試する。					
	成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度
収量への影響が少ない省力技術のリスト化		目標			省力技術の探索の検討	省力技術の探索のリスト化	-
		実績			省力技術の探索を実施した	省力技術のリスト化を実施した	-
農業機械の自動操舵およびドローンによる各種作業の検証		目標			各種作業の検証	各種作業の検証	-
		実績			各種作業の検証を実施した	各種作業の検証を実施した	-
新規育種素材を活用した交配後代集団の特性調査、圃場での評価		目標			交配後代集団の特性調査	交配後代集団の特性調査、圃場での評価	-
		実績			交配後代集団の特性調査を実施した	交配後代集団の特性調査、圃場での評価を実施した	-
管理作業の省力化・時間削減が可能な栽培体系の普及による一農家あたり収穫面積向上		目標					10%
マーカー育種技術を利用して育成した台風や干ばつに強く収量が安定する品種導入		目標					1品種
達成状況説明		①サトウキビ省力栽培について、各作業の省略やビレットプランタでの発芽促進について調査し、リスト化により目標達成した。 ②スマート農業機器(自動操舵)による省力性と収量性の調査を実施した。ドローンによるほ場の害虫センシングは、委託事業と連携してデータの蓄積を行い、解析を実施し、目標を達成した。 ③育種関係の委託事業により、耐病性と根の改良系統の選抜を進めた。ゲノム情報の整備を行った。また、根が強く農業特性にも優れた新品種開発に向けた有望系統の調査、評価を行い、選抜して、次の試験へ供試し目標を達成した。					



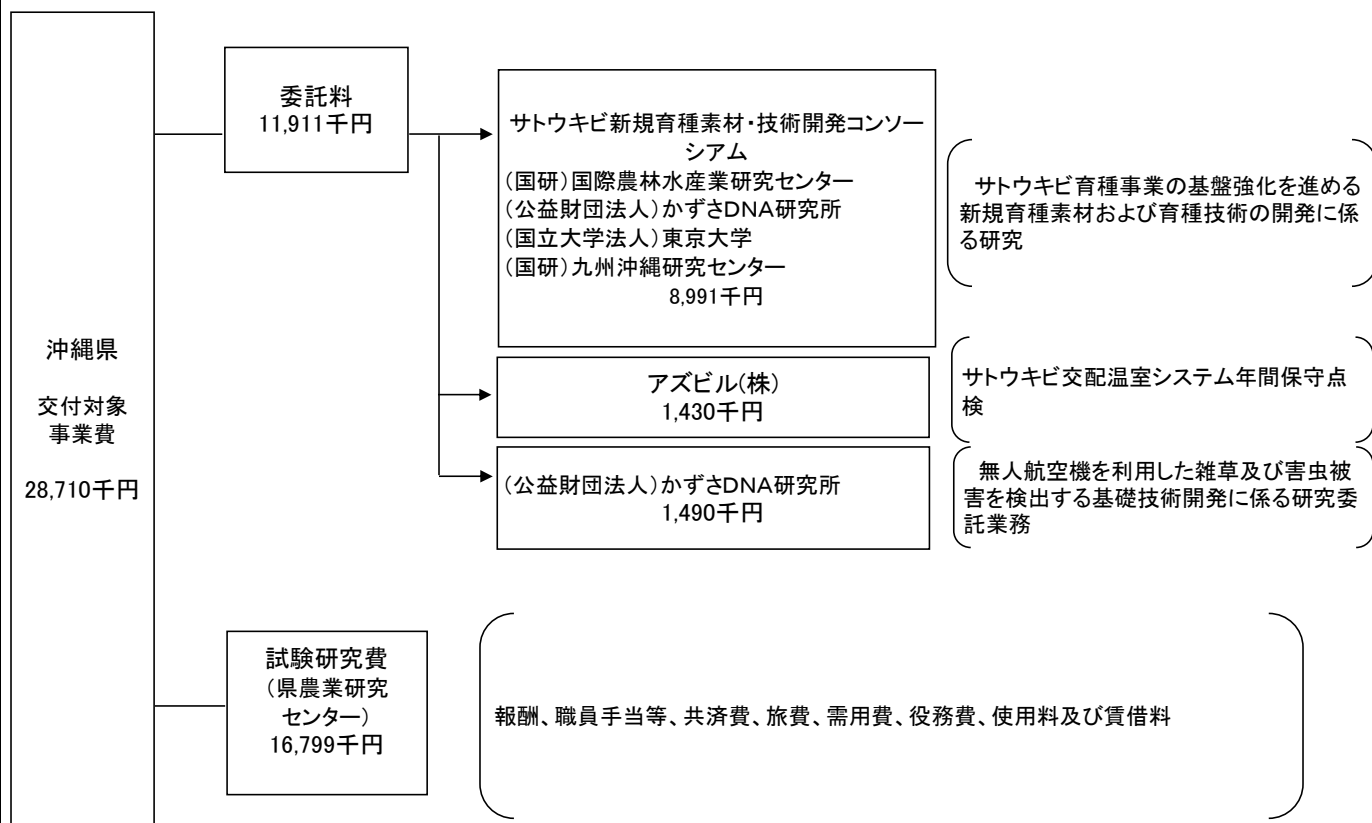
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>①機械化一貫管理作業が収量に与える影響の調査や、スマート技術を組み込んだ体系について、主作型である株出しにおける検討を十分に行うためには、調査面積を拡大する必要がある。</p> <p>②害虫や雑草のスマートモニタリング方法を確立するには、大量の画像処理等が必要となる。</p> <p>③機械化一貫体系に対応した育種のため、新システムを選抜する必要がある。ゲノム情報の整備を進めるため、遺伝子解析等のボリュームを確保する必要がある。</p>	<p>①栽培体系については、株出し試験の結果を導き、各地の実情に合わせた体系とするために調査面積の拡大が必要なため、予算の確保に努める。</p> <p>②画像解析に必要な条件等を整備して実施する。</p> <p>③評価を実施する系統数と解析する領域については、効率や優先度を確認して実施する。</p>

**今後の取り組み方針**

- ①機械化一貫作業が収量に与える影響の調査や、スマート技術を組み込んだ技術の検証について、各作型で実施する。各地の実情に合わせ体系化を行う。
- ②害虫や雑草のスマートモニタリング方法を確立するため、画像処理等を進める。
- ③遺伝子解析等のボリュームに留意しつつ、選抜技術の確立と有望系統の確立を進める。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
28,710	28,710	22,968	5,742	0	0	0



資金の使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○研究に関する委託を行っており委託事業者は、企画提案プロポーザルなど事業の内容によって選定した、特殊施設は特命随契となっているが、妥当であったと考える。</p> <p>○費目・使途については、事業報告書等を検査し、適正である事を確認した</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即真に必要なものに限定されているか。	

## 令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	60	持続可能な沖縄型果樹生産技術開発事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-オ-③			
担当部課名	農林水産部 農林水産総務課	事業実施 (予定)年度	H25～R8 年度	地域特性を最大限に生かした 農林水産技術の開発と普及			
事業内容	<p>・収穫期予測技術開発に向けて、画像データの蓄積を行い、予測に必要な生育基準点の検出法を開発する。</p> <p>・可視化データを活用した感覚的に理解しやすい栽培マニュアル作成のため、優良生産者圃場を選定し、その施設内環境データおよび樹体情報を収集する。</p> <p>・鮮度保持、1次加工製造技術、安定供給技術の開発にむけた基礎特性の把握や安定生産に向けた栽培技術開発を行う。</p> <p>・新規品目による栽培技術開発に向け、新規品目の評価を行うとともにゲノム情報を活用したパインアップル等のスマート育種システム導入を目指す。</p>						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和13年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	45,066		38,815		34,964
		(b) 予算現額	45,066		38,815		34,964
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	45,066	0	38,815	0	34,964
	B. 執行済額		41,806		30,443		33,675
	うち交付金充当額		33,445		24,355		26,940
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)		92.8%		78.4%		96.3%
予算の状況の説明		<p>・執行率は96.3%であり、概ね計画的に執行された。採用予定の会計年度職員の変更により、職員手当、旅費の費用弁償(会計年度任用職員)に関して執行残が発生した。また、軽トラのリース台数変更に伴い、使用料に執行残が発生した。</p>					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	デジタル技術によって識別が可能な生育基準画像の抽出(パインアップル・マンゴー)	目標	-	-	要素の抽出	画像データの蓄積	
		実績	-	-	要素の抽出のための検討を行った	各生育ステージの画像を収集した	
	マンゴー等における栽培ステージ毎の作業の可視化および環境データの数値化を進める。	目標	-	-	可視化のためのデータ収集	マンゴー優良生産者データ収集	
		実績	-	-	可視化のためのデータ収集を行った	マンゴー優良生産者圃場において環境データを収集した	
	1次加工特性・鮮度保持・機能性試験(アセロラ・パイン・ピタヤ)や安定生産に向けた栽培技術開発(4品目)を実施する。	目標	-	-	各種試験の実施	各種試験の実施	
		実績	-	-	各種試験を実施した	各種試験を実施した	
	安定生産技術開発に向けた栽培試験の実施	目標	-	-	栽培試験の実施	-	
		実績	-	-	栽培試験を行った	-	
新規品目導入に向けた栽培試験の実施およびマンゴーで得られたQTLマーカーの検証およびPCRベースのマーカー化を進める。	目標	-	-	-	新規品目の評価およびマンゴーDNAマーカーの開発		
	実績	-	-	-	新規品目の評価を行った。また、マンゴーDNAマーカーの開発を実施した。		
進捗状況説明	<p>①マンゴー、パインアップルの2品目を対象に、各生育状況別に画像データを収集し、委託先に提供した。収集した画像について解析を進めている。</p> <p>②優良生産者5名の施設内環境データを収集し、各種条件を解析し、単年度成績書を取りまとめ、推進会議で検討した。</p> <p>③ピタヤ、パインアップル、アセロラ、シークワーサーに関して鮮度保持条件の確立および加工特性評価を実施し、単年度成績書を取りまとめ、推進会議で検討した。</p> <p>④中晩性カンキツ、インドナツメを対象に、安定生産技術開発に向けた栽培試験を実施した。委託課題においてマンゴーのDNAマーカー開発を実施し、成果を報告書として取りまとめた。</p> <p>・その他、アセロラ、パッションフルーツ等の研究課題ごとに、単年度成績書を取りまとめ、推進会議で検討した。</p>						

R5成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (R13年度)
		目標				
栽培ステージ毎の画像データの蓄積(パインアップル、マンゴーの2品目:画像データ各1,000枚以上収集)	目標	-	-	1品目:100枚	2品目: 各1000枚以上	-
	実績	-	-	1品目: 2,500枚を検証した	パイン・マンゴー:動画を含む各1000枚以上の画像データを収集した。	-
マンゴー優良生産者圃場において施設内環境および樹体データの収集(4生産者以上)	目標	-	-	1品目:4生産者以上	1品目:4生産者以上	-
	実績	-	-	1品目:5生産者のデータを収集した。	マンゴー:5生産者の環境データを収集した。	-
鮮度保持・1次加工品製造技術の開発にむけた基礎特性の把握(3品目)	目標	-	-	2品目	3品目	-
	実績	-	-	3品目の基礎特性把握のための試験を行った。	4品目の基礎特性把握のための試験を行った。	-
新規品目評価(2品目以上)およびマンゴー重要形質におけるPCRベースのマーカー化	目標	-	-	1品目以上	新規:2品目以上 マンゴーDNAマーカー開発	-
	実績	-	-	2品目の評価のための試験を行った。	2品目の試験を行った。 マーカー開発を行った。	-
【R13成果目標】 先端技術を活用した画像等による栽培管理支援技術の実用化	目標	-	-	-	-	2品目
【R13成果目標】 マンゴーにおいて収量を安定して得られる栽培体系の確立	目標	-	-	-	-	平均反収 0.9t/ha
【R13成果目標】 生果および1次加工品供給期間の延長	目標	-	-	-	-	生果:1.5倍 加工品:周年
【R13成果目標】 新規品目の導入による収穫期拡大による冬期取扱量の増大	目標	-	-	-	-	冬期取扱量 10%増
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>生育時期の判別に向け、マンゴーは開花日から開花終了日にかけて、パインアップルは出蕾期の動画を含む画像データを各1,000枚以上収集し、各画像を解析した。目標は達成した。</li> <li>マンゴーの栽培管理技術の可視化を進めるため優良生産者圃場5カ所で実施した。目標は達成した。</li> <li>気候変動環境下での安定供給に向け、ピタヤ、パインアップル、アセロラ、シークワーサーの4品目で鮮度保持条件の検討及び、パインアップルで1次加工品試作を実施した。目標は達成した。</li> <li>新規品目の導入による収穫期拡大および安定生産技術開発にむけて、2品目で試験栽培を行った。目標は達成した。</li> <li>マンゴー「アーウィン」×「キーツ」の実生集団を用いて果実障害に関するDNAマーカーを開発した。目標は達成した。</li> </ul>					

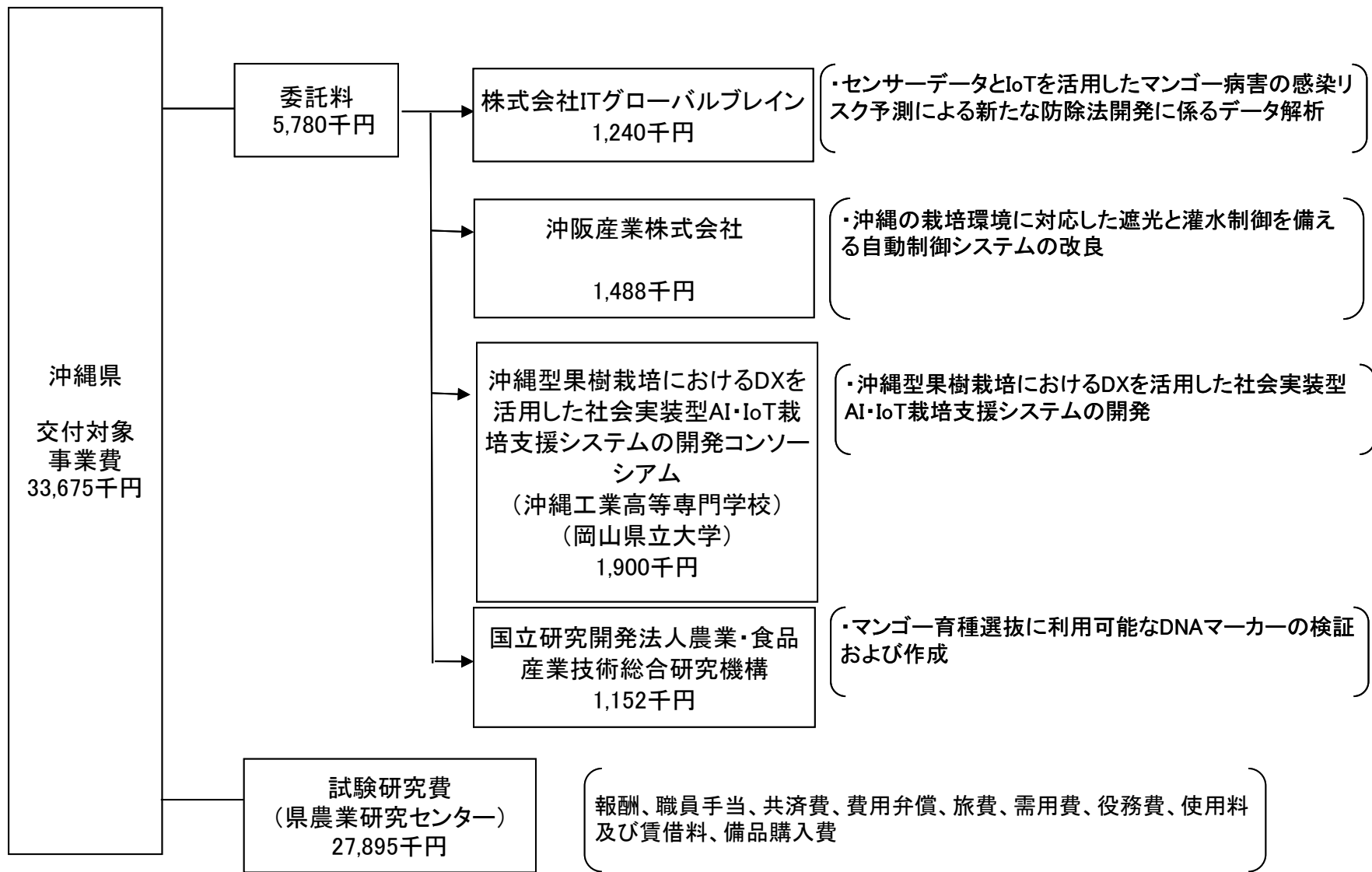
R5-No.60

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>カンキツの開花安定技術の課題は、「天草」の樹勢の低下、疫病によるシークワーサーの枯死が生じ、試験樹の確保が困難となっている。</li> <li>パッションフルーツの課題解決に向けて、既存品種・系統と異なる特性を持つ新たな品種が必要となっている。</li> <li>得られ始めた研究成果に関してより多くの検証が必要になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カンキツの課題では、使用可能な品種および試験圃場を活用し、新たな研究課題を検討する。</li> <li>別事業で育成中の系統や実生個体を活用し、育成を実施する。</li> <li>得られた研究成果については、JAの指導員や各地の果樹担当普及員への情報共有を図り、現場実証が可能か調整を進める。</li> </ul>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>カンキツの課題では、気象条件に影響を受けずに高糖度果実が収穫可能なSマルチを利用した「天草の高品質果実安定生産技術」の課題を実施し、新たな技術開発を目指す。</li> <li>パッションフルーツは、新たな有望品種を開発するため交配育種試験を実施する。</li> <li>研究計画設計会議や研究成果を検討する推進会議に果樹担当普及員等への参加を要請し、情報発信を進めるとともに現地実証の試験設計に反映する。</li> </ul>		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
33,675	33,675	26,940	6,735	0	0	0



資金の 用途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先の選定については、特殊性の高い業務であり、公募型プロポーザル方式による審査や入札を経て適正に実施した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業目的達成の観点から必要性・規模を判断するとともに、額の確定時は支出書類により確認したところ適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



## 令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	61	労働力不足と環境負荷軽減に対応する沖縄型園芸農業技術開発事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所（第4章）	3-(7)-オ-③			
				地域特性を最大限に生かした農林水産技術の開発と普及			
担当部課名	農林水産部 農林水産総務課		事業実施（予定）年度	H30～R8 年度		沖縄振興基本方針該当箇所	
事業内容	①病害虫に強く作業性に優れたゴーヤーの品種育成を行う。 ②野菜類（サヤインゲン等）において作業の省力化と環境負荷軽減に関する栽培技術の検討を行う。 ③病害虫に強く作業性に優れた花きの品種の検討を行う。 ④花き類における省力的防除方法、環境負荷を軽減する施肥条件の検討を行う。					Ⅲ-1-(6)	
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度（R13年度）						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】	予算の状況	(a) 当初予算額	R3年度	R3年度（繰越）	R4年度	R4年度（繰越）	R5年度
		(b) 予算現額	40,427		32,045		28,919
		(c) 増減額（b-a）	40,427	0	32,045	0	28,919
		(d) 前年度繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計（b+d）	0	0	0	0	0
	B. 執行済額		40,427	0	32,045	0	28,919
	うち交付金充当額		37,325		24,795		27,417
	C. 次年度繰越額		29,860		19,835		21,933
	執行率（%）（B/A）		0		0	0	0
	予算の状況の説明		92.3%		77.4%		94.8%
・執行率は94.8%であり、主に報酬、職員手当等、共済費、費用弁償の執行残が発生した。これは、会計年度任用職員の募集を行ったが、必要人数の応募がなかったことによるものである。							
活動目標（指標）及び進捗状況	R5活動目標（指標）		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	①ゴーヤーの品種選抜試験を実施する。	目標			8系統	6系統	
		実績			8系統	6系統	
	②サヤインゲン等における環境制御や天敵等を用いた防除技術等の試験を実施する。	目標			1件	2件	
		実績			1件	2件	
	③キク類の品種選抜試験を実施する。	目標			赤輪ギク2系統 黄輪ギク10系統	16系統	
		実績			赤輪ギク4系統 黄輪ギク13系統	16系統	
	④キク類等における防除作業の軽労化、適正施肥量に関する試験を実施する。	目標			2件	2件	
		実績			2件	2件	
進捗状況説明	①ゴーヤーの選抜試験は、目標どおりの6系統を用いて実施した。 ②野菜類における省力栽培技術及び環境負荷軽減に関する試験を目標どおりの2件実施した。 ③キク類の選抜試験は、目標どおりの輪ギク、スプレーギク、夏秋ギクなど16系統を用いて実施した。 ④花きにおける省力栽培技術及び環境負荷軽減に関する試験を目標どおりの2件実施した。						



R5成果目標(指標)		基準値 (H30年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (R13年度)
		①ゴーヤーの育種素材を2系統以上選定する。	目標	-	-	4系統以上
	実績	-	-	5系統	6系統	-
【R13成果目標】 開発された品種及び栽培技術の導入により、栽培に係る作業時間10%又は農薬や化学肥料の使用量10%を低減する	目標	農薬散布時間 40h/10a	-	-	-	農薬散布時間 36h/10a
②野菜の省力的減栽培技術に関する試験成績を1件以上報告する。	目標	-	-	1件	1件以上	-
	実績	-	-	1件	2件	-
【R13成果目標】 開発された品種及び栽培技術の導入により、栽培に係る作業時間10%又は農薬や化学肥料の使用量10%を低減する	目標	農薬散布時間 35.5h/10a	-	-	-	農薬散布時間 32h/10a
③有望なキク類を6系統以上選抜する	目標	-	-	赤及び黄輪ギク各1系統以上	6系統以上	-
	実績	-	-	赤1,黄3系統	6系統	-
【R13成果目標】 開発された品種及び栽培技術の導入により、栽培に係る作業時間10%又は農薬や化学肥料の使用量10%を低減する	目標	農薬散布時間 27.2h/10a	-	-	-	農薬散布時間 24.5h/10a
④花きの省力的栽培技術に関する試験成績を1件以上報告する。	目標	-	-	1件	1件以上	-
	実績	-	-	2件	2件	-
【R13成果目標】 開発された品種及び栽培技術の導入により、栽培に係る作業時間10%又は農薬や化学肥料の使用量10%を低減する	目標	農薬散布時間 33.3h/10a	-	-	-	農薬散布時間 30h/10a
達成状況説明	<p>①ゴーヤーの選抜試験ではうどんこ病抵抗性ゴーヤーの父母本系統を6系統選抜し、目標を達成した。</p> <p>②サヤインゲンの天敵昆虫を用いた害虫防除の試験成績書とオクラの適正施肥成績書を作成し目標を達成した。</p> <p>③キク類の有望系統の選抜において、輪ギク、スプレーギク、夏秋ギクなど6系統選抜し、目標を達成した。</p> <p>④トルコギキョウにおける環境制御の自動化試験及びキクの省力的防除機の開発の試験成績書を作成し目標を達成した。</p>					

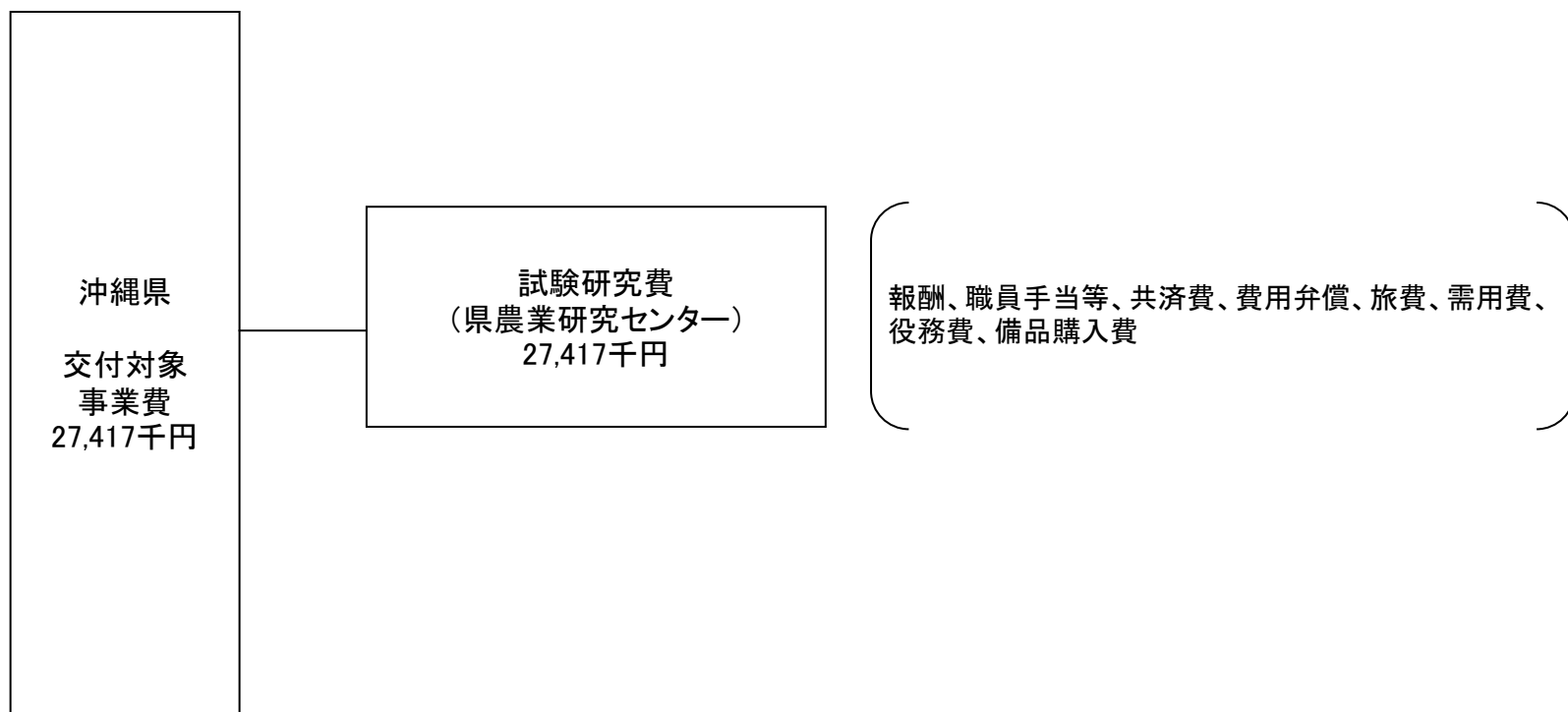
R5-No.61

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>①3月頃にアザミウマが少発生したが、多発すると試験結果に影響を及ぼす可能性がある。</p> <p>②自動側窓開閉装置の開閉に不具合が生じる可能性がある。</p> <p>③例年と比較すると好天が続いたことにより生育が早まり、栽培管理作業に遅れが生じ、試験に影響を与えた可能性がある。</p> <p>④雨が続いたことなどにより植付前の圃場管理作業が思うように進まず、畝立て時にハウス内の土の細かさや湿り具合が均一ではなく、初期の生育に影響があった可能性がある。</p>	<p>①病害虫の発生を防ぐには、計画的な農薬散布が必要である。</p> <p>②自動側窓開閉装置の定期的な動作確認や、停電時の対策が必要である。</p> <p>③栽培管理作業に遅れが生じないようにスケジュール管理を行う必要がある。</p> <p>④雨よけや排水対策を行うとともに、十分な回数の圃場管理作業が行える期間をとる必要がある。</p>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>①あらかじめ農薬散布のスケジュールを組むことで、病害虫発生の予防に努める。</p> <p>②定期的な動作確認や換気扇の活用など、自動側窓開閉装置が停止した場合のリスク軽減対策を行う。</p> <p>③気象状況の見通しを定期的に確認するとともに、状況に合わせて作業スケジュールの見直しなどを行う。</p> <p>④トラクターによるロータリーを行う回数を増やすとともに、作業が天候に左右されないように早めに屋根ビニールの被覆を行う。</p>		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金 充当額	うち県 負担金	うち市町村 負担金	その他	交付対象外 経費
27,417	27,417	21,933	5,484	0	0	0



資金の 用途の 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	-	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・用途については、事業報告書等进行检查し、適正である事を確認した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	62	沖縄アグー豚ゲノム育種推進事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-オ-③			
				地域特性を最大限に生かした 農林水産技術の開発と普及			
担当部課名	農林水産部 農林水産総務課	事業実施 (予定)年度	H25~R7 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(6)		
事業内容	繁殖能力の形質調査を引き続き行うとともに、形質データとゲノム情報から繁殖能力のゲノム育種価を推定する方法を決定する。						
効果発現年度	■当年度      ■後年度(R7年度)						
実施方法	■直接実施      ■委託      □補助      □負担      □その他 ( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	10,648		8,619		6,119
		(b) 予算現額	10,648		8,619		6,261
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	142
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	10,648	0	8,619	0	6,261
	B. 執行済額		10,026		7,973		6,205
	うち交付金充当額		8,021		6,379		4,964
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)		94.2%		92.5%		99.1%
予算の状況の説明		・会計年度任用職員の給与引上げに伴い、予算現額に増額が生じた。 ・執行率は99.1%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	肉質改良の検証:2農場4頭	目標			2農場4頭		
		実績			2農場4頭		
	繁殖性の選抜基準となる形質の調査	目標			調査の実施		
		実績			調査を実施した		
	形質情報の収集:192頭	目標			192頭		
		実績			192頭		
	DNA情報の収集:67頭	目標				67頭	
		実績				96頭	
繁殖性の選抜基準となる形質の調査:100頭	目標				100頭		
	実績				100頭		
進捗状況説明	・DNA情報を96頭分収集した。 ・繁殖性の選抜基準となる形質について100頭調査した。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (R12年度)
	肉質改良検証による選抜雄種豚能力の評価	目標			評価の実施		
		実績			実施した		
	繁殖性の改良目標の設定	目標			改良目標設定		
		実績			設定した		
	形質データとゲノム情報から繁殖能力のゲノム育種価を推定する方法の決定	目標				推定方法の決定	
		実績				決定した	
	【R12年度成果目標】 ・繁殖性改良による繁殖能力の向上		目標				10%向上 (R7年度基準)
	【R12年度成果目標】 ・アグーブランド豚の生産頭数の増頭		目標				30%増頭 (R2年度基準)
	達成状況説明	・形質データとゲノム情報から繁殖能力の遺伝的能力評価方法を決定した。					

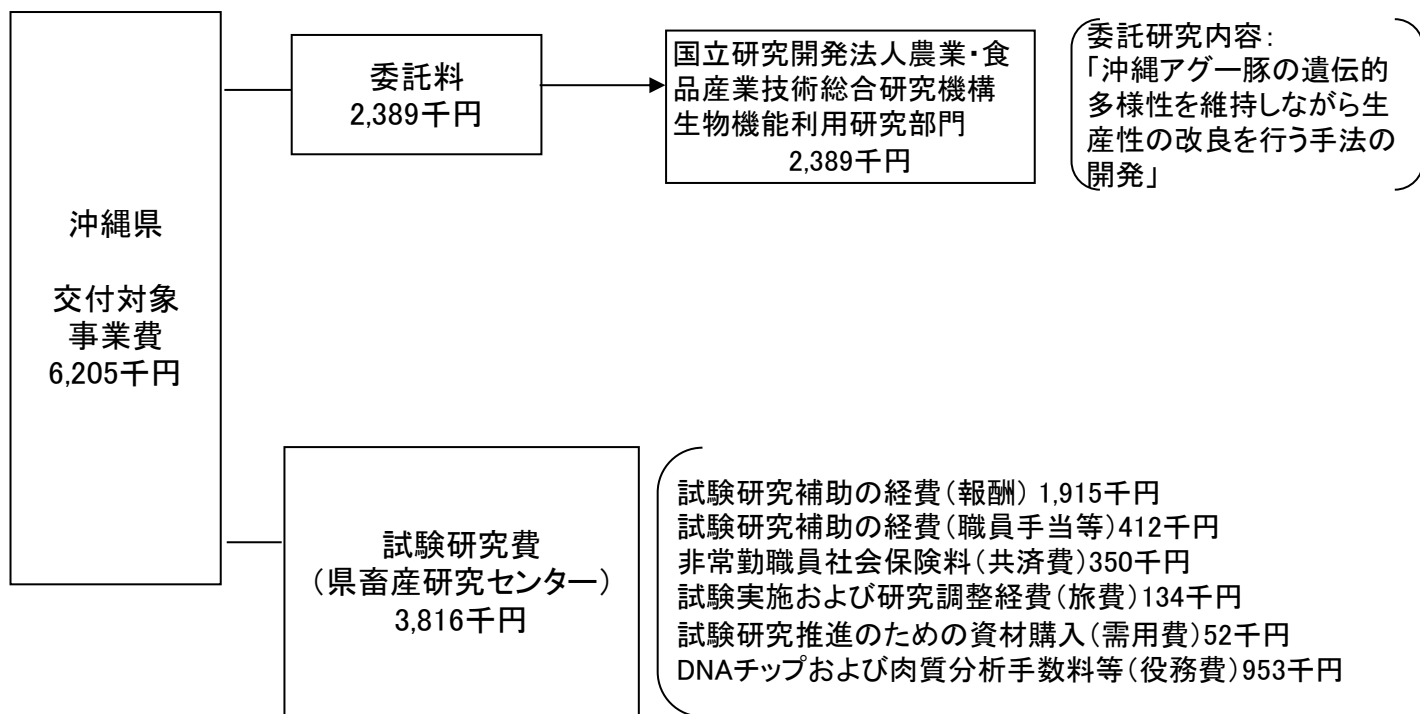
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝的多様性が極めて低いことに加え、現状の生産供給体制では恒常的な集団維持への影響が懸念される。</li> <li>・ゲノム情報や血統情報、それに紐づく肉質、発育性および繁殖性等の情報の管理方法が統一されていない。</li> <li>・生産現場で活用していく体制作りが脆弱である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲノム情報と血統情報を活用して、繁殖能力の遺伝的能力評価方法を開発し、遺伝的多様性を維持した沖縄アグー豚の恒常的な生産体制を構築していく必要がある。</li> <li>・ゲノムや血統情報、それに紐づく形質データについてデータベース化を図る必要がある。</li> <li>・生産現場で事業成果を活用していくために、関係機関と推進体制を構築し、連携を図っていく必要がある。</li> </ul>

今後の取り組み方針

- ・遺伝的多様性の維持や生産供給体制を改善するために、問題点とその課題の抽出を行い、ToDoリストを作成し、実行する。
- ・ゲノム情報、血統情報、形質データのデータベースの作成に取り組む。
- ・事業成果の生産現場実装に向けた課題共有や推進体制を促進するために、関連する協議会等の場を活かしながら関係機関と連携を図る。

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
6,205	6,205	4,964	1,241	0	0	0



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定していること、さらに委託業務の進捗状況を確認しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○費用、使途については支出に関する関係書類により、事業目的に沿って適切に執行されているか確認を行ったところ、適切に執行されていた。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



## 令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	63	持続可能な森林造成支援システムの構築事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-オ-③			
担当部課名	農林水産部 農林水産総務課	事業実施 (予定)年度	R2~R8 年度	地域特性を最大限に生かした 農林水産技術の開発と普及			
事業内容	耕作放棄地等造成未利用地(非農地)を造林地として有効に活用するため、前植生及び土壌調査箇所において樹木を植栽し、初期成長を調べる。また、既存の造林地において生育不良の箇所を調査(土壌、環境)し、生育不良となった原因を検討する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和9年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	5,234	0	20,527	0	17,321
		(b) 予算現額	5,234	0	20,527	0	17,179
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	▲ 142
		(d) 前年度繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	5,234	0	20,527	0	17,179
	B. 執行済額		5,148	0	19,840	0	13,923
	うち交付金充当額		4,118	0	15,872	0	11,138
	C. 次年度繰越額			0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.4%		96.7%		81.0%
予算の状況の説明		耕作放棄地等造成未利用地(非農地)を造林地として有効に活用するため、令和4年度から新規事業(令和2年度、令和3年度で実施した沖縄産早生樹利用促進事業の後継事業)として、植栽予定箇所の植生及び土壌調査、既存の造林地における生育不良の箇所調査、生育不良となった原因の検討に要する経費として委託料、備品費、事務費等を計上した。執行率は81.0%であり、試験地整備に係る委託業務で盛土量を最小化したことによる執行残が発生したことによるものである。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	前植生調査の実施	目標			1ha		
		実績			1ha		
	土壌分析調査の実施(1haのうち植生が特徴的な1500m <sup>2</sup> を対象)	目標			1500m <sup>2</sup>		
		実績			2500m <sup>2</sup>		
	植栽による土壌評価試験の実施	目標				0.5ha植栽	
		実績				0.5ha植栽	
	環境要因による影響調査	目標			0.5ha×2箇所	50地点	
		実績			①0.26ha、②1.48ha	55地点	
選定した2種類の土壌改良方法について植生、土壌条件から1種類を決定	目標				1種類		
	実績				3種類		
進捗状況説明	前年度に土壌調査を実施した箇所(植栽試験地)で、4樹種を植栽した。植栽試験地と比較するため試験地近傍の自然林において土壌・植生調査を実施した。既存の造林地において植栽木の成長量調査を実施するとともに各種土壌調査を実施した。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (R9年度)
	植栽による土壌評価試験プロットの設置	目標			1箇所		
		実績			1箇所		
	環境要因による影響調査プロットの設置	目標			2箇所		
		実績			4箇所		
	環境要因による影響調査	目標			1箇所		
		実績			1箇所		
	植栽木を調査することにより土壌改善手法を選定	目標				2手法	
		実績				3手法	
	既存造林地での調査により土壌改善手法を選定	目標				2手法	
実績					3手法		
【R9年度成果目標】 本事業の成果を活用した造林事業の面積		目標				2ha/年	
達成状況説明	①植栽木調査プロットを8プロット設定し、3手法の土壌改善手法別に植栽試験を実施し、目標を達成した。 ②既存造林地での調査により、3種類の改善手法を選定し、目標を達成した。						



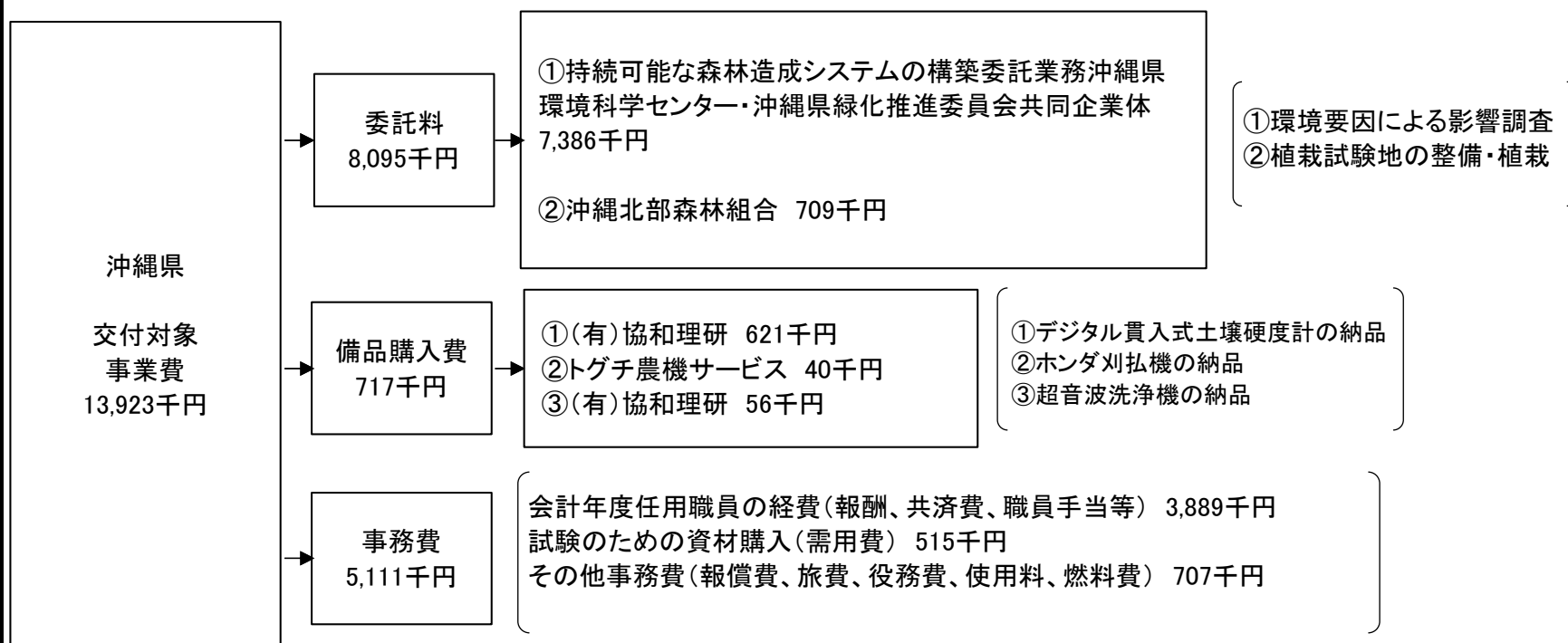
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	令和5年度は植栽委託業務の発注先が、松くい虫被害木の伐倒駆除事業のため、植栽適期に繁忙となり年度末に植栽がずれ込んだ。一方で、植栽を実施した時期にはまとまった降雨があったが、本来植栽適期とされる冬期に記録的な小雨となり、植栽に適さない天候が続いた。	令和7年度にも植栽を実施することから、不測の事態にも柔軟に対応できるように早期発注を行う。

今後の取り組み方針

令和5年度は、4樹種・3手法の土壌改良手法により植栽を行った。令和7年度は、土壌改良手法を絞り込んだ上で多様な造林樹種を植栽する。

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
13,923	13,923	11,138	2,785	0	0	0



資金の流 れ、費 目 ・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先の選定については、特殊性の高い業務であり、公募型プロポーザル方式により適正に選定した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○費目・用途については、事業報告書等支出に関する関係書類により、事業目的に沿って適切に執行されていることを確認した。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○試験地整備に係る盛土は現地地形に合わせ必要最小限とした
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	64	オキナワモズクの生産底上げ技術開発事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-オ-③			
担当部課名	農林水産部 農林水産総務課	事業実施 (予定)年度	H29～R8 年度	地域特性を最大限に生かした 農林水産技術の開発と普及			
事業内容	モズク養殖生産量の安定化の為、高水温耐性等を有する候補株を新たに3株選抜し、その機能性成分特性を確認する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和13年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	13,509		17,332		15,251
		(b) 予算現額	13,509		17,332		15,251
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	13,509	0	17,332	0	15,251
	B. 執行済額		11,939		16,834		14,678
	うち交付金充当額		9,551		13,467		11,742
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)		88.4%		97.1%		96.2%
予算の状況の説明		執行率は96.2%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	①室内実験による耐性等の確認	目標	室内実験による耐性の確認	室内実験による耐性の確認	室内実験による耐性の確認	室内実験による耐性の確認	
		実績	室内実験による耐性を確認した	室内実験による耐性を確認した	室内実験による耐性を確認した	室内実験による耐性を確認した	
	②候補株の機能性成分分析の実施	目標			成分分析の実施	成分分析の実施	
		実績			成分分析を実施した	成分分析を実施した	
	③候補株のゲノム解析の実施	目標	ゲノム解析を着手	ゲノム解析を着手	ゲノム解析の実施	ゲノム解析の実施	
		実績	ゲノム解析を着手した	ゲノム解析を着手した	ゲノム解析を実施した	ゲノム解析を実施した	
	④候補株の試験養殖の実施	目標	試験養殖の実施	試験養殖の実施	試験養殖の実施	試験養殖の実施	
		実績	試験養殖を実施した	試験養殖を実施した	試験養殖を実施した	試験養殖を実施した	
進捗状況説明	①収集した保存株を用い、室内試験により高温耐性を確認した。 ②養殖試験で得られたサンプルを用い、機能性成分分析を実施した。 ③候補株を福井県立大学へ提供し、ゲノム解析を実施した。 ④選定した候補株を使用し、県内2海域で養殖試験を実施した。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (〇〇年度)
	①高水温耐等を有するオキナワモズク候補株を3株選抜	目標			高温耐性等候補株3株を選抜する	高温耐性等候補株3株を選抜する	
		実績			高温耐性等候補株3株を選抜した	高温耐性等候補株3株を選抜した	
	②候補株の機能性成分と遺伝的特性把握、養殖試験による品質の確認	目標			品質確認を実施する	品質確認を実施する	
		実績			品質確認を実施した	品質確認を実施した	
	【R13成果目標】 オキナワモズク養殖生産量の対前年度比		目標				
達成状況説明	①室内実験により高水温耐性等を有するオキナワモズクの候補株を3株選抜した。 ②候補株を用い機能性成分と遺伝子特性把握、および養殖試験による品質の確認を行った。						

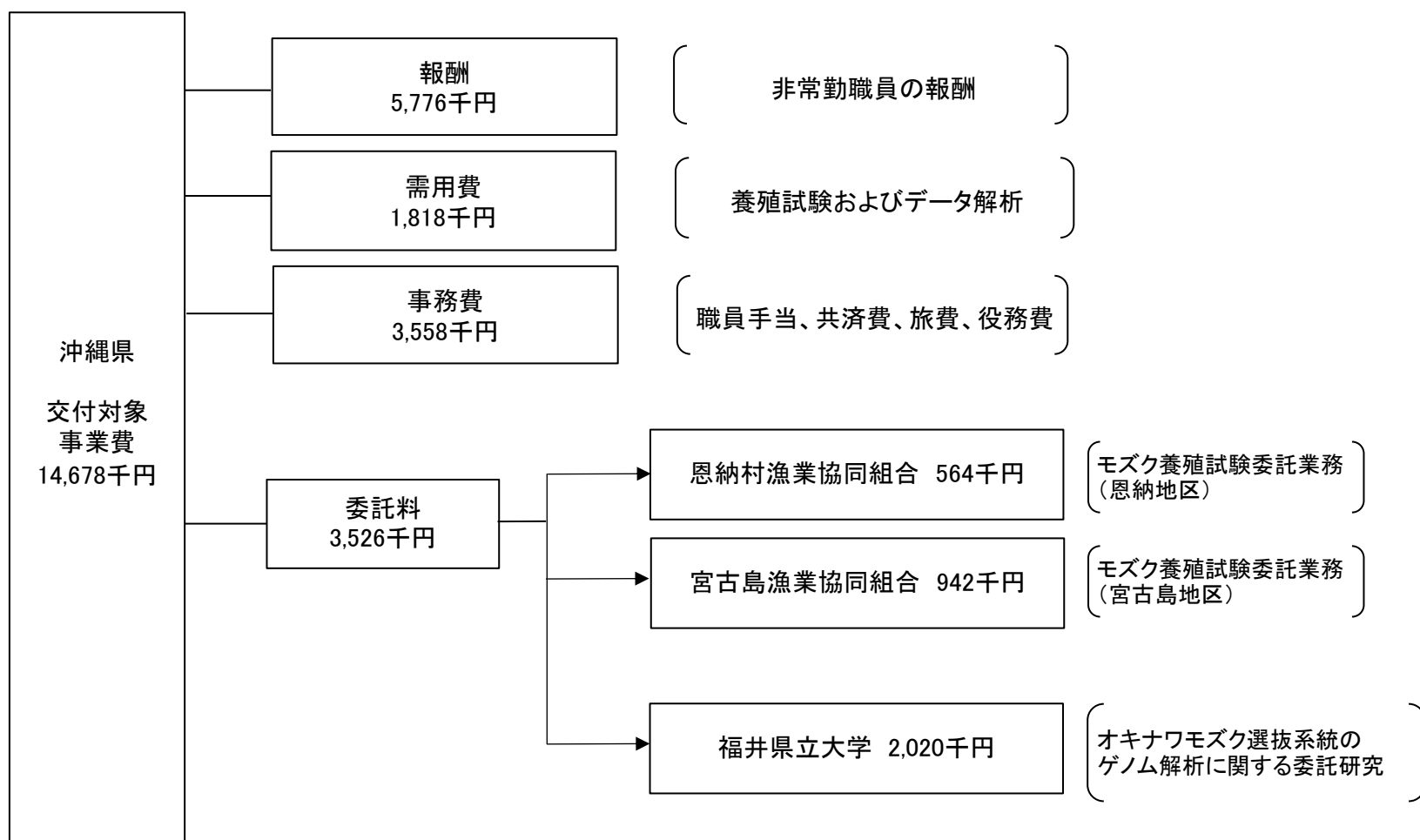
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	①室内実験と養殖試験により、高水温耐性を有し、かつ生産性と品質において優良と見込まれる株を選抜した。しかし、これらの選抜株の生産性や品質が、異なる気象条件下でも同様に発現するか明らかではない。 ②選抜株の機能性成分含有量について、統計的な有意差を確認する必要がある。 ③天然または養殖海域から多くの候補株を採集しており、効率的な選抜が必要となる。	①異なる気象条件下において養殖試験を実施し、選抜株の生産性と品質の再現性を確認する必要がある。 ②統計的な有意差を確認するためには、十分量の検体数を確保する必要がある。 ③効率的な選抜のため、既存株と遺伝的に異なる株を一次選抜する必要がある。

今後の取り組み方針

- ①選抜した株の生産性と品質の安定性を明らかにするため、複数年における養殖試験を実施し再現性の検証を行う。
- ②十分量の検体数を確保するため、複数箇所からのサンプリングを行い分析に供する。
- ③遺伝子解析による効率的な一次選抜の手法を構築する。

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付対象事業費の内訳				交付対象外経費
		うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	
14,678	14,678	11,742	2,936	0	0	0



資金の流し、点検項目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、養殖管理を行い、かつ海域を熟知する漁協が対象となるため、随意契約が妥当であったと考えている。 ○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	65	ミーバイ養殖高度化に向けたガンジュー（健康）評価事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所（第4章）	3-(7)-オ-③			
担当部課名	農林水産部 農林水産総務課	事業実施（予定）年度	H27～R8 年度	地域特性を最大限に生かした農林水産技術の開発と普及			
事業内容	養殖生産者の経営安定を図るため、血液分析等を取り入れた健康状態評価に関する研究を行う。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度（令和13年度）						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額【単位：千円】		R3年度	R3年度（繰越）	R4年度	R4年度（繰越）	R5年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	9,279	-	7,512	-	6,257
		(b) 予算現額	9,279	-	7,512	-	6,257
		(c) 増減額（b-a）	0	-	0	-	0
		(d) 前年度繰越額	0	-	0	-	0
		A. 計（b+d）	9,279	-	7,512	-	6,257
	B. 執行済額		8,781	-	6,099	-	5,965
	うち交付金充当額		7,024	-	4,879	-	4,772
	C. 次年度繰越額		0	-	0	-	0
	執行率（%）（B/A）		94.6%	-	81.2%	-	95.3%
予算の状況の説明		・養殖現場における生残率低下問題に対応するため、令和4年度から新規事業（平成27～令和3年度で実施したおきなわ産ミーバイ養殖推進事業の後継事業）として、飼育試験や血液の採取・分析等に要する需用費等を計上した。 ・執行率は95.3%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標（指標）及び進捗状況	R5活動目標（指標）		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	養殖魚の血液性状と給餌飼料の調査の実施	目標	-	-	50検体以上、5経営体以上	調査の実施	
		実績	-	-	40検体、3経営体	うるま市と石垣市で調査を実施	
	給餌試験の実施	目標	-	-	3種類の飼料による比較	-	
		実績	-	-	2種類の飼料による比較	-	
	検討添加物のポリフェノール量測定	目標	-	-	5品目	-	
実績		-	-	8品目	-		
進捗状況説明	・養殖魚の血液性状と給餌飼料の調査の実施については、養殖経営体への説明と調査スケジュール調整、及び調査補助者の確保等の準備を計画的に進めたことにより、目標を達成した。						
成果目標（指標）及び達成状況	R5成果目標（指標）		基準値（H30年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（R13年度）
	健康状態の指標となり得る血液成分の候補を選定する。	目標	-	-	選定の実施	-	-
		実績	-	-	選定の実施	-	-
	血液性状と給餌飼料の調査の継続	目標	-	-	-	養殖魚、試験魚：各50検体	-
		実績	-	-	-	養殖魚13、試験魚55検体	-
	【R13成果目標】ミーバイ養殖における生産額		目標	100%	-	-	115%
達成状況説明	・養殖魚の調査数については、実績が13で未達成となっている。達成できなかった主な理由は、県内三大生産地の一つについてスケジュールが合わず調査を見送ったこと、及び石垣島の養殖場で継続調査中の当歳魚の生育が悪く負担が大きい採血を延期したことによるものである。 ・試験魚の調査数については、予備試験5、給餌試験40、継続調査10となり目標を達成した。						



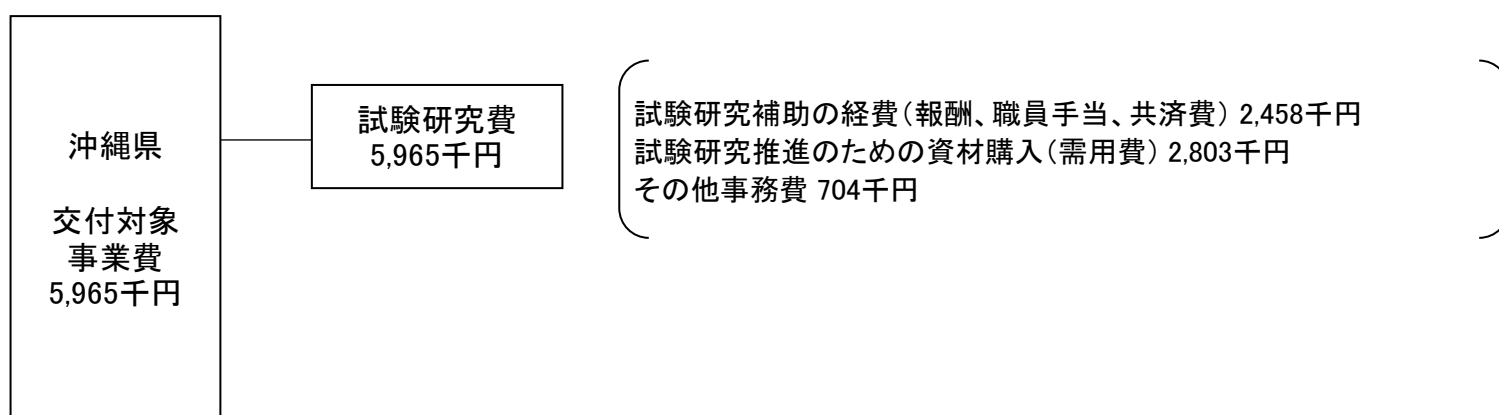
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気代や飼料価格、人件費の高騰によりR6は調査旅費を大幅に削減した。</li> <li>・これにより、石垣島の養殖場での継続調査を確実に実施することが養殖魚データ収集上重要となった。</li> <li>・R6～8年度に一時的に養殖用ミーバイ種苗の生産業務で当施設の水槽が使用されることから、試験や飼育に利用する水槽確保が課題となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養殖場調査のアポ取りや事前準備をより入念に行う必要がある。</li> <li>・沖縄本島の養殖場調査については、関係機関との連携を深め、より効率的に実施する必要がある。</li> <li>・既存魚類用水槽の利用調整、水槽の用意が必要である。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- ・石垣島の養殖場生産者と連絡を密にとり、生育状況の把握と改善に配慮することで、病気等の発生を回避し確実に調査を実施していく。
- ・普及指導員等と連携し、日帰り出張やメール聞き取り等により沖縄本島養殖場の調査を実施する。
- ・スケジュールを踏まえた事前準備作業により、水槽利用可能期間を最大限に活用した飼育試験に取り組む。
- ・貝類用水槽等に配管等の必要機能を整備することで、飼育水槽を確保する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
5,965	5,965	4,772	1,193	0	0	0



資金の 使途の 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の 使途の 点検 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○備品購入や分析手数料等高額な支出についても、県の規則やガイドラインに基づき適切な随意契約が行っており、妥当と考えられる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○電気料金を事業での実使用量の一部分に基づき算定するなど、過大請求を生じない対策がなされている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	85	沖縄型森林環境保全事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-カ-②			
担当部課名	農林水産部 森林管理課	事業実施 (予定)年度	H29~R6 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所			
事業内容	沖縄の貴重な森林を守るために、市町村等関係機関と協同して地域の状況に応じた防除戦略を策定するとともに、沖縄の森林に対する被害の大きい松くい虫や南根腐病について防除を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度( 年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 ■補助 □負担 □その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	49,707		43,853		92,832
		(b)予算現額	69,761		86,712		92,832
		(c)増減額(b-a)	20,054	0	42,859	0	0
		(d)前年度繰越額	0		0		0
		A. 計(b+d)	69,761	0	86,712	0	92,832
	B. 執行済額		73,526		87,283		91,753
	うち交付金充当額		53,856		65,506		73,386
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		105.4%		100.7%		98.8%
予算の状況の説明		・予算額、執行済額には市町村負担金が含まれる。 ・執行率は98.8%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	松くい虫防除のため伐倒駆除を700m <sup>3</sup> 、樹幹注入を8,500本実施する。	目標	-	-	伐倒駆除 536m <sup>3</sup> 樹幹注入 8,000本	伐倒駆除 700m <sup>3</sup> 樹幹注入 8,500本	
		実績	-	-	伐倒駆除 727m <sup>3</sup> 樹幹注入 8,211本	伐倒駆除 851m <sup>3</sup> 樹幹注入 9,615本	
	学校や住宅地周辺等、人の往来の激しい地域で、南根腐病の土壌くん蒸剤を用いたモデル防除を実施する。	目標	-	-	モデル地区の選定	モデル防除の実施	
		実績	-	-	モデル地区の選定	モデル防除の実施	
	南根腐病の防除手法に関する勉強会を開催し、2樹病の普及啓発を行う。	目標	-	-	勉強会の開催	勉強会の開催	
		実績	-	-	勉強会の開催	勉強会の開催	
	防除戦略検討委員会の開催	目標	検討委員会の開催	検討委員会の開催	-	-	
		実績	検討委員会の設置 メールや資料送付による 意見収集	Web会議形式による 検討委員会の開催	-	-	
松くい虫被害への対応 340m <sup>3</sup>	目標	被害木等の 駆除の実施	被害木等の 駆除の実施	-	-		
	実績	被害木等の 駆除の実施	被害木等の 駆除の実施	-	-		
石垣島における南根腐病被害の実態調査を完了する。また、前年度選定した試験地2箇所、南根腐病に効果のある土壌くん蒸剤を用いた、モデル防除を実施する。	目標	実態調査の実施 モデル防除試験地の選定	実態調査の実施 モデル防除試験地の選定	-	-		
	実績	宮古島の実態調査完了 モデル防除試験地2箇所 選定	石垣島の実態調査完了 モデル防除試験地2箇所 所で実施	-	-		
進捗状況説明	・令和5年度沖縄型森林環境保全事業において、松くい虫被害木の伐倒駆除を851m <sup>3</sup> 実施した。また、感染防止のための樹幹注入を薬剤数9,615本(対象松本数1,921本)実施した。 ・南根腐病の土壌くん蒸剤を用いたモデル防除を実施した。 ・上記モデル防除実施の際、関係者を対象とした勉強会を同時開催した。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (〇〇年度)
	松くい虫被害量を946m <sup>3</sup> 以下にする。	目標	-	-	-	946m <sup>3</sup>	-
		実績	-	-	-	13,890m <sup>3</sup>	-
	住宅地や学校施設等において土壌くん蒸剤を用いた南根腐病防除を実施するため、必要な安全対策等を検証すると共に、南根腐病の病状及び防除方法について普及啓発を行う。	目標	-	-	-	モデル防除、 普及啓発	-
		実績	-	-	-	モデル防除、 普及啓発	-
達成状況説明	松くい虫被害量については、目標946m <sup>3</sup> に対し、実績が13,890m <sup>3</sup> で未達成となっている。達成できなかった主な理由は、久米島町での爆発的な被害拡大によること、沖縄本島北部地域での被害増加によるものである。 南根腐病については、モデル防除を実施することで安全対策等を検証することができ、勉強会を同時開催することで防除方法について普及啓発できたため、達成できた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・松くい虫 沖縄本島北部において、ドローンや衛生画像、目視調査により被害を把握し、被害の北上化を防止するために適切な駆除を実施できた。しかし、対策が追い付かず、北部地域の各地で被害が拡大している。 また、久米島町において、貴重なマツを保全するため、町が主体となり防除を実施しているが、被害の奥地化、労力不足により、対策が追い付いていない。</p>	<p>・松くい虫 引き続き被害状況を把握し、適切な駆除を実施する。沖縄本島北部・久米島町ともに有識者の助言を得ながら、本島北部においては、被害北上化の防止や被害拡大の抑制、久米島町においては、貴重なマツを保全するため、引き続き周辺被害木の駆除や樹幹注入による予防を行う。 また、補助金執行をさらに早め、伐倒駆除量の増加を図る。</p>

**今後の取り組み方針**

令和6年度実施内容

- ・松くい虫防除事業の評価・検証と防除戦略の更新
- ・松くい虫防除の実施(伐倒駆除・樹幹注入)
- ・南根腐病モデル防除結果のとりまとめ、とりまとめ結果の普及啓発

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先				交付対象外経費
		うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	
95,277	91,753	73,386	11,534	6,833	0	3,524

沖縄県 交付対象 事業費 91,753千円	委託料 22,891千円	株式会社沖縄環境分析センター・ 日本工営株式会社共同企業体 13,892千円  沖縄北部森林組合 8,999千円	(令和5年度森林病害虫戦略的防除 調査検討委託業務)  (令和5年度松くい虫防除対策事業)
	補助金 68,144千円	東村、大宜味村、今帰仁村、宜野座村、金武町、名護市、恩納村、読谷村、うるま市、北谷町、北中城村、嘉手納町、八重瀬町、浦添市、久米島町 68,144千円 (うち市町村負担金 6,833千円)	(松くい虫防除に係る経費の補助)
	事務費 717千円	(需用費・旅費)	

資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、企業組織、実績、知識等を勘察した上で選定しており妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○受益者(市町村)負担については、沖縄特別振興対策事業で実施した「リュウキュウマツ景観保全対策事業」の補助率(国:県:市町村=8:1:1)を参考に設定しており、妥当である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、額の確定時において支出等を確認しており適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	69	特別栽培農産物認証等推進・普及事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所（第4章）	3-(7)-キ-①				
担当部課名	農林水産部 営農支援課	事業実施（予定）年度	H31～R6 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(6)			
事業内容	特別栽培農産物認証などの環境保全型農業のさらなる推進を目的に、特裁水準の栽培技術に関するマニュアル作成のための実証を行う。また、生産者や関係機関に制度の周知や栽培技術の普及を図る。有機JAS水準の栽培可能性を検証する。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度（    年度）							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（    ）							
予算額・執行額 【単位：千円】		R3年度	R3年度（繰越）	R4年度	R4年度（繰越）	R5年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額	32,737		37,718		37,718	
		(b) 予算現額	32,737		37,718		37,718	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0	
		(d) 前年度繰越額						
		A. 計 (b+d)	32,737	0	37,718	0	37,718	
	B. 執行済額		31,930		37,181		37,184	
	うち交付金充当額		25,544		29,745		29,747	
	C. 次年度繰越額				0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		97.5%		98.6%		98.6%	
予算の状況の説明		執行率は98.6%であり、概ね計画的に執行できた。						
活動目標（指標）及び進捗状況	R5活動目標（指標）		進捗状況					
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	・園芸戦略品目の実証栽培、栽培マニュアル作成基礎データ収集（5品目）	目標	-	-	5品目	5品目		
		実績	-	-	5品目	5品目		
	・特別栽培農産物の栽培技術の普及、環境保全型農業の周知（5品目）	目標	-	-	5品目	5品目		
		実績	-	-	5品目	5品目		
進捗状況説明	・農家モデルほ場でマニュアル作成に向けた施設栽培2品目（ピーマン、キュウリ）に加えて、露地栽培3品目（にんじん、葉野菜2品目）の検証栽培を行い、データを収集することができた。 ・前事業で作成した品目別マニュアル（さやいんげん、ゴーヤー、トマト、オクラ、かぼちゃ）を活用し、農家圃場で技術を実証し、また現地検討会やリモート研修等にてJA営農指導員、普及指導員、農家等に周知することができた。							
成果目標（指標）及び達成状況	R5成果目標（指標）		基準値（〇〇年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（〇〇年度）	
			目標	-	-	1977件	2052件	-
	環境保全型農業の実践数		実績	-	-	1967件	2006件	-
	達成状況説明	・令和2年度末時点（1,827件）を基準として、年間75件増加を想定し、令和5年度末時点で2,052件を目標としたところ、実績が2,006件と概ね達成した（達成率97.8%）。						



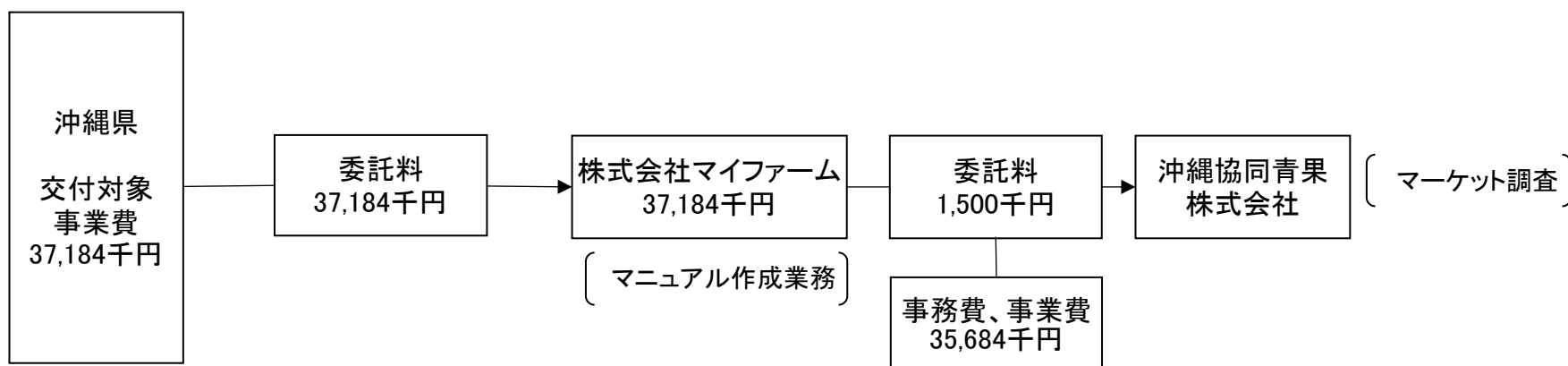
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・認証制度の認知度向上、確立した栽培技術(栽培マニュアル)の普及を図る必要がある。	・制度の認知度向上や栽培技術(栽培マニュアル)の普及のため、生産者や関係団体等に対して、勉強会や実証ほ場での現地検討会を開催する必要がある。

**今後の取り組み方針**

・出荷団体等や生産者に対して、特裁マニュアルの勉強会や実証圃場での現地検討会を実施する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
37,184	37,184	29,747	7,437	0	0	0



資金の流 れ、費 目 ・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、公募型企画提案競争(プロポーザル方式)によって選定したため、妥当であったと考える。 ○費目、使途については、事業報告書等を検査し、適正であることを確認した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	82	沖縄型耕畜連携推進事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-キ-①			
担当部課名	農林水産部 畜産課	事業実施 (予定)年度	H29～R6 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	環境に配慮した持続可能な農 林水産業の推進		
事業内容	本県の酪農経営の課題のひとつとなっている家畜排せつ物処理問題について、現状・課題を分析し、具体的な対策方針を策定・普及 することで、耕畜連携の体制を推進し酪農振興を支援を図る。 ①作物栽培試験 ②モデル地区における耕畜連携推進						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度( R8 年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	14,259	—	14,568	—	14,318
		(b) 予算現額	14,259	—	14,568	—	14,318
		(c) 増減額(b-a)	0	—	0	—	0
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	14,259	—	14,568	—	14,318
	B. 執行済額		14,175	—	14,555	—	14,227
	うち交付金充当額		11,340	—	11,644	—	11,382
	C. 次年度繰越額		0	—	0	—	0
	執行率(%) (B/A)		99.4%	—	99.9%	—	99.4%
予算の状況の説明		・酪農環境課題の解決及び耕畜連携を推進を図るため、令和4年度から新規事業(平成29～31年、令和3年 に実施した沖縄型畜産排水対策課題解決モデル事業の後継事業)として、環境対策事例の作出及び実証試 験等に要する経費として委託料等を計上した。 ・執行率は99.4%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	飼料作物の栽培試験	目標	—	—	—	2期	
		実績	—	—	—	3期	
	意見交換会開催	目標	—	—	1回	1回	
		実績	—	—	1回	1回	
	講習会開催	目標	—	—	1回	—	
実績		—	—	2回	—		
進捗状況説明	・飼料作物の栽培試験について、液肥をデントコーンに散布して嗜好性や飼料成分を把握する実証試験を実施した。 ・モデル地区における耕畜連携の推進について、集約処理システムに係る情報提供を行う意見交換会を実施した。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (〇〇年度)
	液肥散布による飼料作物の栽培試験を実施(2期)	目標		—	—	2期	
		実績		—	—	3期	
	意見交換会開催(1回)	目標		—	1回	1回	
		実績		—	1回	1回	
	講習会開催(1回)	目標		—	1回	—	
		実績		—	2回	—	
【R8成果目標】 ・南部地域酪農家と耕種農家等の堆肥・液肥 利用の推進		目標				5件	
達成状況説明	①飼料作物の栽培試験について、液肥をデントコーンに散布して嗜好性や飼料成分を把握する実証試験を3期作実施した。 ②モデル地区における耕畜連携の推進について、集約処理システムに係る情報提供を行う意見交換会を1回実施した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①実証試験について、液肥の活用先の選択肢の一つであるデントコーンにおける収量、栄養価および嗜好性を検証することができたが、台風被害や害虫被害を防ぐことが課題とわっている。 ②耕畜連携について、畜産側だけでなく、耕種側(使う側)との連携が課題となっている。	①播種および農薬散布のタイミングについて、検討を行う必要がある。 ②家畜ふん尿の資源循環を促進するために、耕種側へのヒアリングの実施や意見交換等の取り組みが必要である。
今後の取り組み方針		
①R5年度の情報収集・調査を基に作成した栽培試験のスケジュールにて、生育調査及び播種前・刈取り後の適切な時期に土壌分析・飼料成分分析等を行う。 ②耕種農家を交えた意見交換会を開催する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
総事業費	交付対象事業費	うち交付金 充当額	うち県 負担金	うち市町村 負担金	その他	交付対象外 経費
14,227	14,227	11,382	2,845	0	0	0
<pre> graph TD     A[沖縄県 交付対象事業費 14,227千円] --&gt; B[委託費 14,227千円]     B --&gt; C[一般社団法人沖縄県環境科学 センター・株式会社建設技術研 究所共同企業体]     C --&gt; D[沖縄型耕畜連携推進事業に 係る業務委託]           </pre>						
資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目		評価に関する説明		
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○委託事業者は公募型プロポーザル方式を採用し、一連の契約に係る見積書及び企画提案書等を徴し選定しており、妥当であったと考える。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。		
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。				
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。				
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。					